

株式会社 日立製作所  
ソフトウェア事業部

取 扱 説 明 書 0 4 5 8 9 3

P - 1 B 1 Z - 1 1 1 1

I T R e p o r t U t i l i t y 0 2 - 0 0 - / A

I T R e p o r t U t i l i t y ( H P - U X 版 ) の 機 能



この取扱説明書で説明する機能は、下表に示す変更履歴を持っています。

取扱説明書番号	変更内容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
039931	初版	—	システム情報採取ツール (HP-UX版) 01-00
041863	採取する情報を追加しました。	S	システム情報採取ツール (HP-UX版) 01-10
	「日立サポート360」のオプションサービスである「ソフトウェア環境ヘルスチェックオプション」に関する資料を採取する機能を追加しました。サービスの詳細は、担当営業/SEへお問い合わせください。	A	
	採取資料の最終形態がアーカイブファイルの場合のメッセージ「KAIS306-I:The archive file has not been compressed. Use a following file as is.」を追加しました。	S	
043618	このツールの名称を「システム情報採取ツール」から「IT Report Utility」に変更しました。	S	IT Report Utility (HP-UX版) 02-00
	採取する情報を追加・変更しました。詳細は「付録E. 01-10から02-00の間で追加／変更になった資料」をご参照ください。	A	
	「3. インストール, アンインストール」の手順をCD-ROMに収録されたデポによる手順から、このツールのアーカイブファイルに格納されたデポによる手順に変更しました。	S	

取扱説明書番号	変更内容	変更区分 (*1)	提供システム バージョン・リビジョン
043618	「付録B. メッセージ一覧」に新設したメッセージ KAIS159-Wの説明を追記しました。	A	IT Report Utility (HP-UX版) 02-00
043618-K1	「付録A. 採取資料一覧」に HP-UX Virtual Partitions & HP Integrity VM 6.1の注意事項を追記しました。	S	IT Report Utility (HP-UX版) 02-00
043618-K2	「付録A. 採取資料一覧」に HP-UX Virtual Partitions & HP Integrity VM 6.1.5の注意事項を追記しました。	S	IT Report Utility (HP-UX版) 02-00
	「2. ご使用になる前に」に「2.1 業務稼働中に資料を採取する場合の注意事項」を追加しました。	S	
045893	採取する情報を変更しました。詳細は「付録F. 02-00から02-00-/Aの間で追加/変更になった資料」をご参照ください。	C	IT Report Utility (HP-UX版) 02-00-/A

なお、単なる誤字・脱字などは、お断りなく訂正しました。

(注) \* 1 変更区分C：機能を変更（変更又は削除）します。既存のユーザは、使い方を変更する必要があります。

変更区分A：既存のユーザには影響ありません。新機能を使用する場合だけ、使い方を変更する必要があります。

変更区分S：機能の変更はありません。説明の追加・変更があります。

# はじめに

## ■本書について

本書は「P-1B1Z-1111 IT Report Utility (HP-UX版) 02-00-A」の機能と操作方法について説明するものです。

## ■対象読者

本書は、IT Report Utilityを使って、次の作業をする方を対象としています。

- ・ IT Report Utilityを利用して資料採取を実施する方、または手順書提示などによって実施依頼する方
  - ・ IT Report Utilityを利用して採取した資料を扱う方
- また、本書は、HP-UXについて、システム管理者相当の知識を有していることを前提としています。

## ■本書の構成

本書は、次に示す章と付録から構成されています。

### 第1章 概要

IT Report Utility の概要について説明しています。

### 第2章 ご使用になる前に

IT Report Utility を使用する前に知っておく必要がある事項について説明しています。**初めて IT Report Utility をご利用される場合は、必ずこの章をご一読ください。**

### 第3章 インストール、アンインストール、および IT Report Utility の情報の確認

IT Report Utility のインストール方法、アンインストール方法、および IT Report Utility の情報の確認方法について説明しています。

### 第4章 機能と操作方法

IT Report Utility の機能と基本的な操作方法について説明しています。**初めて IT Report Utility をご利用される場合は、必ずこの章をご一読ください。**

### 第5章 既定（デフォルト）動作の設定、変更方法

既定値（デフォルト値）の設定方法について説明しています。

### 第6章 トラブルの対処方法

トラブル発生時の対処方法について説明しています。

### 付録A 採取資料一覧

IT Report Utility で採取できる資料について説明しています。

## 付録B メッセージ一覧

systoru コマンドが出力するメッセージについて説明しています。

## 付録C 実行時間とファイルサイズの目安

systoru コマンドの実行時間および systoru コマンドが出力する採取資料のファイルサイズについて説明しています。

## 付録D ファイル一覧

IT Report Utility のインストールファイル, および, IT Report Utility が作成するファイルについて説明しています。

## 付録E 01-10 から 02-00 の間で追加/変更になった資料

IT Report Utility のバージョン 01-10 からバージョン 02-00 の間で追加/変更になった採取資料について説明しています。

## 付録F 02-00 から 02-00-/A の間で追加/変更になった資料

IT Report Utility のバージョン 02-00 からバージョン 02-00-/A の間で追加/変更になった採取資料について説明しています。

## ■本書で使用している用語

用語	意味
IT Report Utility	システムの構成確認に必要な情報, および障害の一時切り分けや調査, 解析に必要な情報を, 効率的に採取するツールです。 バージョン 02-00 より「システム情報採取ツール」から変更しました。
IPF	インテル社製の 64 ビット CPU である Itanium プロセッサ・ファミリ (IPF: Itanium Processor Family) のことです。
systoru	IT Report Utility のコマンド名です。 <b>S</b> YS <b>T</b> em <b>T</b> otal <b>R</b> eporting <b>U</b> tility の略です。
オプション, 引数	systoru コマンドの説明で使用するオプション, 引数を次のとおり定義します。 <b># systoru -t config</b> <b>-t</b> = オプション, <b>config</b> = 引数
クリーンアップ	IT Report Utility の機能の 1 つです。 systoru コマンドが生成した一時ファイルや中間ファイルの削除などが含まれます。systoru コマンド終了直前の最終処理です。
更新インストール	IT Report Utility がインストール済みのシステムで, 新しいバージョンをインストール (バージョンアップ) するためのインストール方法のことです。

用語	意味
構成定義ファイル	IT Report Utility の動作を定義できる設定ファイルのことです。データディレクトリ、クリーンアップ方針、およびファイルサイズの上限值を設定できます。
採取ツール	IT Report Utility が資料を採取する際に起動するツールです。起動するツールは採取パターン定義ファイルに定義されていて、主に OS のコマンドと IT Report Utility に付属する専用の採取ツールから成ります。
採取パターン定義ファイル	IT Report Utility が資料を採取する際に起動するツールや収集するファイルなどを定義したファイルです。このファイルは編集できません。
システム情報採取ツール	IT Report Utility の旧名称です。バージョン 02-00 から「IT Report Utility」に変更しました。
実行履歴ログ	IT Report Utility が出力するログファイルの 1 つです。実行履歴ログ (systoru_hist.log) は、systoru コマンドの実行履歴を記録するログで、1 回の実行で数行出力されます。サイズで制限され、systoru_hist_old.log と 2 世代がシステム上に残ります。
実行ログ	IT Report Utility が出力するログファイルの 1 つです。実行ログ (systoru.log) は、直前の systoru コマンドの処理をトレースし、出力するもので、systoru_old.log と 2 世代がシステム上に残ります。
修復インストール	IT Report Utility がインストールされているシステムで、ファイルの修復を目的に、同一バージョンをインストールするインストール方法のことです。
中間ファイル	IT Report Utility が資料を採取する過程で、一時的に作成するファイル（アーカイブ前のファイル、ディレクトリや圧縮前のアーカイブファイル）のことです。
データディレクトリ	採取資料を一時的に 1 か所に収集するための作業ディレクトリのことです。
デポ (depot)	HP-UX システムにインストールすることを目的としたソフトウェアのパッケージのことです。
ホスト名	HP-UX システムで、hostname コマンドの実行結果として表示される OS 上のマシン名称のことです。

### ■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

### ■ KB (キロバイト) などの単位表記について

本書で使用する容量単位の各接頭語表記 (K, M, G) の計算値は次のとおりです。

- 1KB (キロバイト) = 1,024 バイトです。

- 1MB (メガバイト) =  $1,024^2$  バイトの計算値です。 (1,048,576 バイト)
- 1GB (ギガバイト) =  $1,024^3$  バイトの計算値です。 (1,073,741,824 バイト)

#### ■商標類

- HP Serviceguard は, Hewlett-Packard Development Company, L.P. の商品名称です。
- HP-UX は, Hewlett-Packard Development Company, L.P. のオペレーティングシステムの名称です。
- Itanium は, アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

#### ■本書での表記

本書では, オペレーティングシステム (OS) 名称において,

HP-UX 11i v2(IPF)を HP-UX 11i v2 または HP-UX に

HP-UX 11i v3(IPF)を HP-UX 11i v3 または HP-UX に

それぞれ表記します。

#### ■著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2012, Hitachi, Ltd.

## 目 次

1.	概要	1
1. 1	IT Report Utility とは	1
1. 2	IT Report Utility の特長	2
2.	ご使用になる前に	3
2. 1	業務稼働中に資料を採取する場合の注意事項	3
2. 2	障害発生時の対応について	3
2. 3	資料の再採取について	3
3.	インストール, アンインストール, および IT Report Utility の情報の確認	4
3. 1	この章で説明する内容	4
3. 2	インストールの前に	4
3. 3	新規インストール	5
3. 4	更新インストール	6
3. 5	修復インストール	7
3. 6	アンインストール	7
3. 7	インストール状態の確認	8
3. 8	バージョンの確認方法	9
3. 8. 1	systoru コマンドで確認する方法	9
3. 8. 2	ログファイルで確認する方法	9
3. 8. 3	OS のコマンドで確認する方法	9
4.	機能と操作方法	11
4. 1	この章で説明する内容	11
4. 2	IT Report Utility を実行する前に	11
4. 3	システム情報の採取方法	11
4. 3. 1	システムの構成を把握するための情報	12
4. 3. 2	障害の初期切り分けのための情報	12
4. 4	採取資料の参照方法	13
4. 5	systoru コマンドの機能	14
4. 5. 1	systoru コマンドの構文	14
4. 5. 2	各種オプションとその機能	14
4. 5. 3	実行状況の画面表示	17
4. 5. 4	終了コード (戻り値)	18
4. 5. 5	systoru コマンドの出力ファイル (採取資料)	18
4. 5. 6	systoru コマンド実行中の注意事項	21
5.	既定 (デフォルト) 動作の設定, 変更方法	24
5. 1	既定 (デフォルト) 動作を設定, 変更する方法	24
5. 2	構成定義ファイル	24
5. 2. 1	構成定義ファイルの既定値 (デフォルト値) と動作内容	25
5. 2. 2	構成定義ファイルに設定できる値	26
5. 3	既定動作の設定例	27



5. 3. 1	データディレクトリを設定, 変更する方法	27
5. 3. 2	採取資料の出力先およびファイル名を設定, 変更する方法	27
5. 3. 3	クリーンアップ方針を設定, 変更する方法	28
5. 3. 4	資料採取で消費するディスク容量の上限値を設定する方法	28
5. 3. 5	利用者が作成した構成定義ファイルを利用する方法	28
5. 4	既定値設定の考え方	29
5. 4. 1	データディレクトリ (SYSTORU_DATA_DIRECTORY)	29
5. 4. 2	クリーンアップ方針 (SYSTORU_CLEANUP)	29
5. 4. 3	資料採取で消費するディスク容量の上限値 (SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE)	29
6.	トラブルの対処方法	31
6. 1	トラブル対処時の留意点	31
6. 2	ログファイルの種類と場所	31
6. 2. 1	実行ログファイル	31
6. 2. 2	実行履歴ログファイル	31
6. 3	トラブルシューティングに必要な資料	32
6. 4	インストール, アンインストール時のトラブルシューティング	32
6. 5	systoru コマンド実行時のトラブルシューティング	33
6. 5. 1	systoru コマンド起動直後のトラブル	33
6. 5. 2	systoru コマンド実行中のトラブル	36
6. 5. 3	出力ファイル (採取資料) に関するトラブル	38
6. 6	その他のトラブルシューティング	40
付録A.	採取資料一覧	41
付録B.	メッセージ一覧	51
付録C.	実行時間とファイルサイズの目安	66
付録D.	ファイル一覧	67
付録E.	01-10 から 02-00 の間で追加/変更になった資料	70
付録F.	02-00 から 02-00-/A の間で追加/変更になった資料	71

## 1. 概要

### 1. 1 IT Report Utilityとは

「IT Report Utility」は、システムの構成確認に必要な情報、および、障害の一次切り分けや調査／解析に必要な情報を、効率的に採取するためのツールです。

IT Report Utility の活用例を次に示します。

(例1) システム構成の把握

#### 【利用状況】

- ・システム導入時、環境構築／テスト実施時および本番稼働開始直前のシステム構成を確認したり記録したりします。
- ・ハードウェア構成変更やソフトウェアのバージョンアップなど、システム変更前後の構成を確認したり記録したりします。

#### 【期待する効果】

- ・お客様システムの構成を正確に把握できます。
- ・お客様システムの構成管理に対する作業負荷を低減できます。

(例2) 障害の初期切り分け

#### 【利用状況】

- ・システムに障害が発生した際に、障害の一次切り分けや調査／解析に必要な資料を採取します。

#### 【期待する効果】

- ・障害調査に必要な初期切り分け資料を採取する作業負荷を低減できます。
- ・初期切り分け資料の採取漏れに伴う障害対応の長期化を防止できます。

IT Report Utility の利用イメージを次の図に示します。

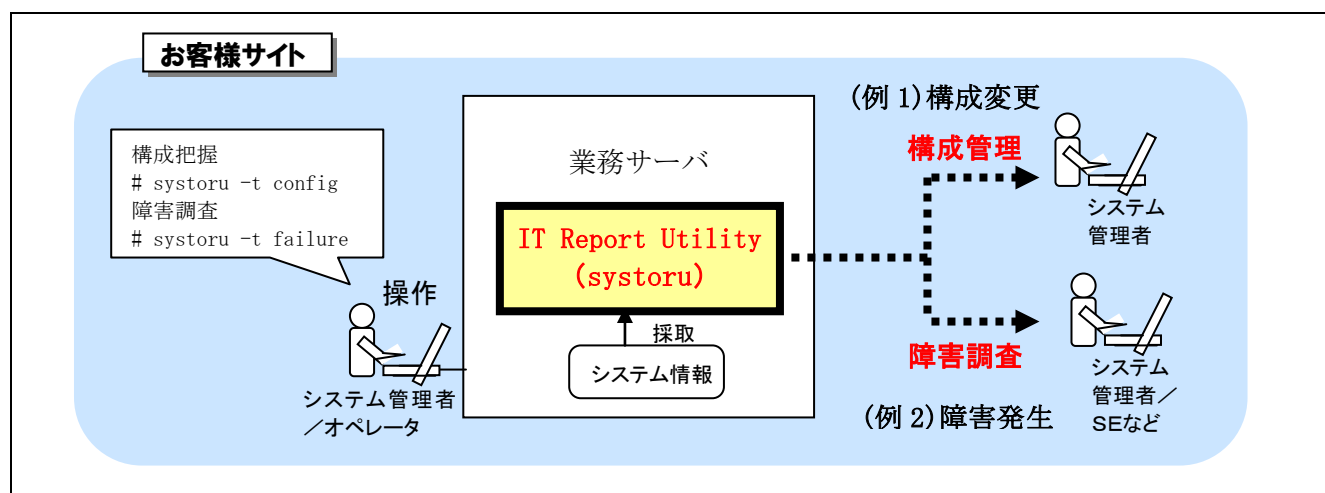


図 1-1 IT Report Utility の活用イメージ

## 1. 2 IT Report Utilityの特長

IT Report Utilityの特長を次に示します。

- OSの違いや各資料の採取手順，方法を意識しないで資料の採取ができます。
- 複数の資料を1つのファイルとしてシステム上に出力できます。
- OSやハードウェア，ミドルウェア※（一部）などのログを資料として一括採取できます。
- システムの構成変更時や障害発生時など，状況に応じた資料が採取できます。

注※ 日立オープンミドルウェアのインストール情報が採取できます。

## 2. ご使用になる前に

IT Report Utilityを利用する前に、知っておく必要がある事項について説明します。

IT Report Utility を初めて利用する場合は、必ずこの章の内容をご一読ください。

### 2. 1 業務稼働中に資料を採取する場合の注意事項

IT Report Utility実行中は、資料採取に伴い業務のレスポンス・スループットに影響を与える可能性があります。業務稼働中に資料を採取する場合には必ず事前に検証してから採取するようにしてください。

### 2. 2 障害発生時の対応について

システムに障害が発生している場合、IT Report Utilityの実行でエラーが発生して、資料採取に失敗することがあります。その場合は、IT Report Utilityとは別の方法で資料採取を実施するなどして、システムで発生している障害の復旧および原因究明を優先して実施してください。

障害発生時の対応例を次の図に示します。

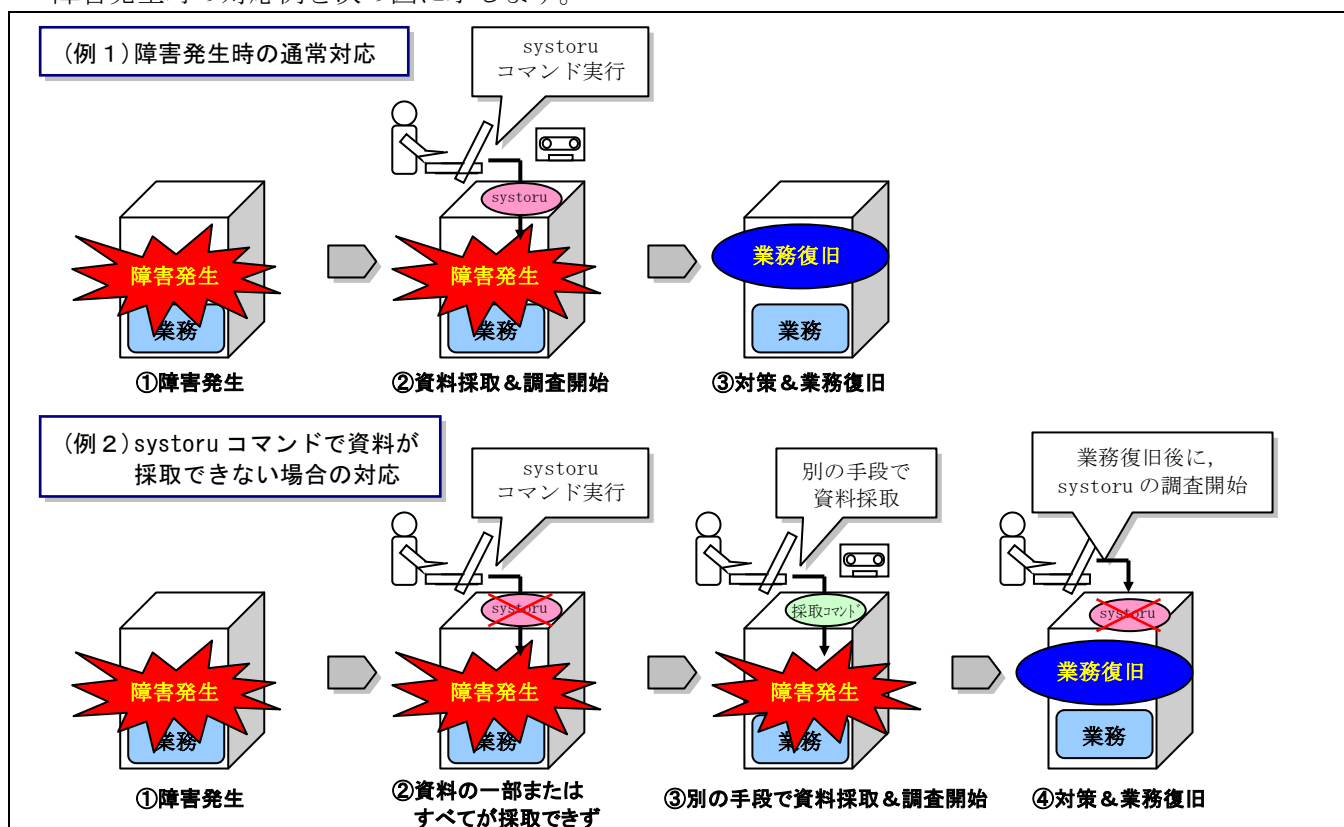


図 2-1 障害発生時の資料採取の対応

### 2. 3 資料の再採取について

IT Report Utilityは、どのような状況や場面でも、すべての資料を漏れなく採取できることを保証するものではありません。そのため、システムの状態によっては、再度 IT Report Utility の実行、または別の手段での資料採取の実施が必要になる場合があります。また、IT Report Utility を障害時に使用する場合、障害のさらなる調査のために、追加で資料の採取が必要となることがあります。

### 3. インストール, アンインストール, およびIT Report Utilityの情報の確認

この章では, IT Report Utility のインストール方法, アンインストール方法, および IT Report Utility の情報の確認方法について説明します。

#### 3. 1 この章で説明する内容

利用者が実施する内容と, この章での参照先を次の表に示します。

表 3-1 インストール, アンインストールに関する参照先

#	利用者が実施したい内容	この章での参照先
1	IT Report Utility を新規にインストールしたい	3. 3 新規インストール
2	IT Report Utility をバージョンアップしたい	3. 4 更新インストール
3	誤って壊れてしまった (消してしまった) ファイルを回復したい	3. 5 修復インストール
4	IT Report Utility をアンインストールしたい (完全に削除したい)	3. 6 アンインストール
5	IT Report Utility のインストール状況を確認したい	3. 7 インストール状態の確認
6	IT Report Utility のバージョンを知りたい	3. 8 バージョンの確認方法

この章で説明している手順は, すべて root ユーザで実施してください。

なお, IT Report Utility のインストールおよびアンインストールを実行するに当たり, この取扱説明書に記載されている手順を実施する限りは, サービスの再起動やサーバの再起動などは必要ありません。

#### 3. 2 インストールの前に

ここでは, IT Report Utility をインストールする前に知っておく必要があることについて説明します。

(1) インストール前に, 次の事項を Readme ファイルで確認してください。

- ・適用 OS
- ・適用機種
- ・前提プログラム
- ・メモリ所要量
- ・ディスク占有量

また, ディスクの空き容量を十分に確認してください。

(2) 複数のターミナルから同時にインストール操作またはアンインストール操作を実施しないでください。

(3) IT Report Utility がインストールされたあとに作成されるディレクトリおよびファイルのうち, 利用者がカスタマイズできるのは構成定義ファイルだけです。それ以外のファイルおよびディレクトリは, ファイルの内容だけでなく, 属性も含めて**絶対に変更しないでください**。

### 3. 3 新規インストール

IT Report Utility をシステムに新規にインストールする手順を説明します。ここでは、IT Report Utility のアーカイブファイル (P1B1Z1111\_0200\_A.tar.Z) に格納されているデポからインストールする場合を例に、手順を示します。

IT Report Utility をインストールするためのデポは「hitachi-sys-info-collection-tool-02.00.01.1.IA64.depot」で格納先ディレクトリは「ia」です。なお、この例では、アーカイブファイルは/var/tmp/work に置かれているものとします。

- ① root ユーザでログインします。
- ② cd コマンドで、IT Report Utility のアーカイブファイルがあるディレクトリに移動します。アーカイブファイルが/var/tmp/work にある場合の cd コマンドの例を次に示します。「△」は半角スペースを表します。

```
# cd△/var/tmp/work
```

- ③ unzip コマンドで、IT Report Utility のアーカイブファイルを解凍します。アーカイブファイル名がP1B1Z1111\_0200\_A.tar.Zである場合のuncompress コマンドの例を次に示します。「△」は半角スペースを表します。

```
# uncompress△P1B1Z1111_0200_A.tar.Z
```

- ④ ③で解凍したファイルを tar コマンドで展開します。uncompress コマンドで解凍後のファイル名が P1B1Z1111\_0200\_A.tar であった場合の、tar コマンドの例を次に示します。「△」は半角スペースを表します。

```
# tar△xvf△P1B1Z1111_0200_A.tar
ia/
ia/hitachi-sys-info-collection-tool-02.00.01.1.IA64.depot
:
:
```

- ⑤ swinstall コマンドでインストールを実施します。デポから新規インストールする場合のコマンドの例を次に示します。「△」は半角スペースを表します。

```
# swinstall△-s△/var/tmp/work/ia/hitachi-sys-info-collection-tool-02.00.01.1.IA64.depot△
hitachi-sys-info-collection-tool
```

- ⑥ swlist コマンドでインストール状態を確認します。インストール状態の確認については、「3.7 インストール状態の確認」を参照してください。

### 3. 4 更新インストール

すでに IT Report Utility がインストールされていて、新しいバージョンをインストール（バージョンアップ）する場合の手順を次に示します。ここで説明する例は 02-00-/A にバージョンアップする場合の例です。

ここでは、/var/tmp/work/ia にあるデポからインストールする場合を示します。

- ① root ユーザでログインします。
- ② swinstall コマンドでインストールを実施します。

/var/tmp/work/ia にあるデポからインストールする場合のコマンドの実行例を次に示します。

「△」は半角スペースを表します。

```
# swinstall△-s△/var/tmp/work/ia/hitachi-sys-info-collection-tool-02.00.01.1.IA64.depot△
hitachi-sys-info-collection-tool
```

#### 注意

同じバージョンの IT Report Utility がインストール済みの場合、次に示すようにインストール処理がスキップされます。「△」は半角スペースを表します。

```
# swinstall△-s△/var/tmp/work/ia/hitachi-sys-info-collection-tool-02.00.01.1.IA64.depot△
hitachi-sys-info-collection-tool

        (中略)

1 個のファイルセットは、選択されているリビジョンがすでに
インストールされています。

* Analysis and Execution succeeded

        (後略)
```

- ③ swlist コマンドでインストール状態を確認します。  
インストール状態の確認については、「3. 7 インストール状態の確認」を参照してください。

#### ■更新インストール時の注意事項

(1) 更新インストールの場合、次のファイルの内容が引き継がれます。

- ・構成定義ファイル  
/etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru\_conf
- ・既定の格納先に出力された採取資料  
/var/opt/hitachi/systoru/data 下のファイル
- ・実行ログファイルおよび実行履歴ログファイル  
/var/opt/hitachi/systoru/log 下のファイル

構成定義ファイルを初期状態に戻したい場合は、次に示すファイルをコピーして利用してください。

/opt/hitachi/systoru/template/systoru\_conf

### 3. 5 修復インストール

すでに IT Report Utility がインストールされていて、ファイルの復旧などを目的に、同一バージョンをインストール（上書き）する場合の手順を次に示します。

ここでは、`/var/tmp/work/ia`にあるデポからインストールする場合を示します。

- ① root ユーザでログインします。
- ② `swinstall` コマンドでインストールを実施します。  
`/var/tmp/work/ia`にあるデポからインストールする場合の実行例を次に示します。「△」は半角スペースを表します。

```
# swinstall△-x△reinstall=true△-x△reinstall_files=true△-s△
/var/tmp/work/ia/hitachi-sys-info-collection-tool-02.00.01.1.IA64.depot△hitachi-sys-info-collection-tool
```

- ③ `swlist` コマンドでインストール状態を確認します。  
 インストール状態の確認については、「3. 7 インストール状態の確認」を参照してください。

#### ■修復インストール時の注意事項

(1) 修復インストールの場合、次のファイルの内容が引き継がれます。

- ・構成定義ファイル  
`/etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru_conf`
- ・既定の格納先に出力された採取資料  
`/var/opt/hitachi/systoru/data` 下のファイル
- ・実行ログファイルおよび実行履歴ログファイル  
`/var/opt/hitachi/systoru/log` 下のファイル

構成定義ファイルを初期状態に戻したい場合は、次に示すファイルをコピーして利用してください。

`/opt/hitachi/systoru/template/systoru_conf`

### 3. 6 アンインストール

IT Report Utilityをシステムからアンインストールする手順を次に示します。

- ① rootユーザでログインします。
- ② `swlist`コマンドでインストール状態を確認します。  
 インストール状態の確認については、「3. 7 インストール状態の確認」を参照してください。
- ③ `ps`コマンドを実行してIT Report Utility (`systoru`コマンド) の動作状況を確認します。

IT Report Utility が動作中の場合、次のように表示されます。このような場合は、プロセスが終了するまで待ちます。# `ps -ef | grep systoru`

```
root 20115 19825 2 16:49:04 pts/tc 0:00 systoru -t config
```

- ④ 次のコマンドを実行して、アンインストールを開始します。  
 アンインストールが完了すると、次のように「Execution succeeded.」と表示されます。「△」



は半角スペースを表します。

```
# swremove△hitachi-sys-info-collection-tool
      (中略)
      * Beginning Execution
      * The execution phase succeeded for "(ホスト名):/".
      * Execution succeeded.
      (後略)
```

- ⑤ swlistコマンドでインストール状態を確認します。

インストール状態の確認については、「3.7 インストール状態の確認」を参照してください。

### ■アンインストール時の注意事項

(1) アンインストールすると、ユーザが作成したディレクトリおよびファイルを除き、インストールされたすべてのファイルが削除されます。

(2) 次に示すファイルおよびディレクトリは、アンインストール時に削除されます。

- ・構成定義ファイル

/etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru\_conf

- ・既定の格納先に出力された採取資料

/var/opt/hitachi/systoru/data 下のファイル

- ・実行ログファイルおよび実行履歴ログファイル

/var/opt/hitachi/systoru/log 下のファイル

カスタマイズした構成定義ファイル、採取資料、またはログファイルを、アンインストール後も利用したい場合は、事前に別の場所にファイルを退避してください。

### 3.7 インストール状態の確認

IT Report Utilityがシステムにインストールされているかどうかを確認する手順を次に示します。

- ① rootユーザでログインします。

- ② 次のコマンドを実行してインストール状態を確認します。「△」は半角スペースを表します。

```
# swlist△-l△product△hitachi-sys-info-collection-tool
hitachi-sys-info-collection-tool 02.00.01.1 IT Report Utility
```

IT Report Utilityがインストールされている場合は、この例のように、「hitachi-sys-info-collection-tool」が表示されます。表示されなければ、インストールされていません。

### 3. 8 バージョンの確認方法

IT Report Utilityのバージョンを確認するには、次の方法があります。どの方法もrootユーザで行う必要があります。

- systoruコマンドで確認する方法
- ログファイルで確認する方法
- OSのコマンドで確認する方法

#### 3. 8. 1 systoruコマンドで確認する方法

systoruコマンドの-hオプションでバージョン情報を確認できます。

-hオプションを指定してsystoruコマンドを実行すると、次のようにusageと一緒にバージョン情報が表示されます。「△」は半角スペースを表します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -h
systoru [Ver. 02-00-/A]
usage: systoru { -g pp_group | -t target } ...
        [ -c configfile ] [ -d directory ] [ -o output_file ]
systoru -h
```

バージョン情報 (02-00-/A の場合)

#### 3. 8. 2 ログファイルで確認する方法

実行ログファイルのヘッダ部分でバージョン情報を確認できます。

実行ログファイルは採取資料にも含まれますので、採取資料からもバージョンを特定できます。

##### (1) ログファイルの場所

- システム上の実行ログファイルの場所  
/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru.log
- 採取資料を展開した後のログファイルの場所  
/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名\_YYMMDDhhmmss>/systoru.log<sup>※</sup>  
注※ /var/opt/hitachi/systoru/data下にある採取資料を展開した場合

##### (2) ログファイルの内容

```
KAIS201-I:systoru [Ver. 02-00-/A] started at 2013/10/01 10:00:00.
KAIS204-I:systoru argument is "△ config".
KAIS202-I:Started initializing.
:
```

バージョン情報 (02-00-/A の場合)

#### 3. 8. 3 OSのコマンドで確認する方法

OSコマンドのswlistコマンドでバージョン情報を確認できます。

次に示すどちらのコマンドでも、インストールされている IT Report Utility のバージョンを確認できます。「△」は半角スペースを表します。

```
# swlist△-l△product△hitachi-sys-info-collection-tool
hitachi-sys-info-collection-tool 02.00.01.1 IT Report Utility
```

バージョン情報(02-00-/Aの場合)

```
# swlist△-l△product△-v△hitachi-sys-info-collection-tool
hitachi-sys-info-collection-tool
product
tag hitachi-sys-info-collection-tool
(中略)
revision 02.00.01.1
title IT Report Utility
description "IT Report Utility"
(後略)
```

バージョン情報 (02-00-/Aの場合)

## 4. 機能と操作方法

この章では、IT Report Utility の機能と操作方法について説明します。

IT Report Utility を初めて利用する場合は、必ずこの章の内容をご一読ください。

### 4. 1 この章で説明する内容

利用者が実施する内容と、この章での参照先を次の表に示します。

表 4-1 機能と操作方法に関する参照先

#	利用者が実施する内容	この章での参照先
1	システム情報を採取したい	4. 3 システム情報の採取方法
2	IT Report Utility で採取したシステム情報を参照したい	4. 4 採取資料の参照方法
3	systoru コマンドの機能詳細を知りたい	4. 5 systoru コマンドの機能

この章で説明している手順は、すべて root ユーザで実施してください。

### 4. 2 IT Report Utility を実行する前に

ここでは、IT Report Utility を実行する前に知っておく必要があることについて説明します。

- (1) システム情報を採取する場合、システムの稼働状況を勘案し、業務負荷が低い時間帯に実行してください。
- (2) systoru コマンドで採取できる資料には大きく分けて2種類あります。指定するオプションを確認の上、状況に応じて必要な資料を採取するようにしてください。指定するオプションについては、「4. 5 systoru コマンドの機能」を参照してください。
- (3) IT Report Utility を実行する前に、中間ファイルおよび採取資料が格納されるデータディレクトリに、十分な空き容量があることを確認してください。
- (4) IT Report Utility で出力されるファイルの容量は、「付録 A. 採取資料一覧」および「付録 C. 実行時間とファイルサイズの目安」を参考に見積もりをしてください。
- (5) IT Report Utility は、既定値として消費するディスク容量の上限値を 500MB に設定しています。ディスクの空き容量を考慮し、必要に応じて設定を変更してください。ディスク容量の上限値の設定方法については、「5. 3. 4 資料採取で消費するディスク容量の上限値を設定する方法」を参照してください。

### 4. 3 システム情報の採取方法

IT Report Utility では、次の2種類のシステム情報を採取できます。

- システムの構成を把握するための情報
- 障害の初期切り分けのための情報

#### 4. 3. 1 システムの構成を把握するための情報

システムの構成を把握するための情報を採取する場合の手順を次に示します。

- ① root ユーザでログインします。
- ② -t オプションに「config」を指定して、systoru コマンドを実行します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t config
```

このコマンドを実行すると、既定（デフォルト）の出力先に次に示すファイル名で採取資料が出力されます。

```
/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名※1>_<YYMMDDhhmmss※2>.tar.Z
```

注※1 <ホスト名>には、使用中のシステムのホスト名が入ります。

注※2 <YYMMDDhhmmss>には、systoruコマンドを実行した西暦（下2桁）、月、日、時、分、秒を連結した文字列が入ります。

- ③ 出力ファイル（採取資料）を確認します。

systoruコマンドを実行した場合の画面表示の例を次に示します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t config
cleanup :*****
KAIS214-I:Output file = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070914210215.tar.Z. size = 132295 bytes.
```

この例では、「Output file = 」以降に表示されている次のファイルがsystoruコマンドの出力ファイルです。

ファイル名：/var/opt/hitachi/systoru/data/hostname\_070914210215.tar.Z

サイズ：132,295バイト

#### 4. 3. 2 障害の初期切り分けのための情報

障害の初期切り分けのための情報を採取する場合の手順を次に示します。

- ① root ユーザでログインします。
- ② -t オプションに「failure」を指定して、systoru コマンドを実行します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t failure
```

このコマンドを実行すると、既定（デフォルト）の出力先に次に示すファイル名で採取資料が出力されます。

```
/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名※1>_<YYMMDDhhmmss※2>.tar.Z
```

注※1 <ホスト名>には、使用中のシステムのホスト名が入ります。

注※2 <YYMMDDhhmmss>には、systoruコマンドを実行した西暦（下2桁）、月、日、時、分、秒を連結した文字列が入ります。

- ③ 出力ファイル（採取資料）を確認します。

systoruコマンドを実行した場合の画面表示の例を次に示します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t failure
cleanup :*****
KAIS214-I:Output file = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070914210215.tar.Z. size = 132295 bytes.
```

この例では、「Output file = 」以降に表示されている次のファイルがsystoruコマンドの出力ファイルです。

ファイル名 : /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname\_070914210215.tar.Z

サイズ : 132,295バイト

#### 4. 4 採取資料の参照方法

IT Report Utilityで採取した資料を参照する手順を次に示します。

- ① root ユーザでログインします。
- ② cd コマンドで、IT Report Utility の出力ファイルがあるディレクトリに移動します。  
出力ファイルが/var/opt/hitachi/systoru/data にある場合の cd コマンドの実行例を次に示します。

```
# cd /var/opt/hitachi/systoru/data
```

- ③ uncompress コマンドで IT Report Utility の出力ファイルを解凍します。  
IT Report Utility の出力ファイル名が hostname\_070914210215.tar.Z の場合の uncompress コマンドの実行例を次に示します。

```
# uncompress hostname_070914210215.tar.Z
```

- ④ ③で解凍したファイルを tar コマンドで展開します。  
uncompress コマンドで解凍したあとのファイル名が hostname\_070914210215.tar の場合の tar コマンドの実行例を次に示します。

```
# tar xvf hostname_070914210215.tar
hostname_070914210215/
hostname_070914210215/os/
:
:
```

- ⑤ 展開された採取資料を確認します。  
展開された採取資料の内容を確認します。①～④の手順で展開した場合の展開先ディレクトリは、次のとおりです。

/var/opt/hitachi/systoru/data/hostname\_070914210215

## 4. 5 systoruコマンドの機能

ここでは、systoruコマンドの機能について説明します。

### 4. 5. 1 systoruコマンドの構文

```
systoru {-g pp_group | -t target } ... [-c configfile] [-d directory] [-o output_file]
```

```
systoru -h
```

#### 注意

- この構文には、次に示す表記規約を使用しています。
  - [ ] 省略できるオプションまたは引数であることを示します。  
「|」で区切られている場合はその中の1つを選択することを示します。
  - { } 指定が必須のオプションまたは引数であることを示します。  
「|」で区切られている場合はその中の1つを選択することを示します。
  - ... 前にある要素を任意の回数指定できることを示します。
- コマンドオプションの大文字／小文字は区別されません。
- g オプションおよび-t オプションの引数に指定する値は、大文字／小文字が区別されます。  
例えば、グループ名「PP\_GROUP」と「pp\_group」は別の収集条件として扱われます。
- g または-t のどちらかのオプションを必ず指定してください。-g と-t を同時に指定することもできます。
- g オプションおよび-t オプションに指定する引数に合致する資料だけが採取されます。

### 4. 5. 2 各種オプションとその機能

#### (1) 資料採取条件オプション

-g pp\_group

指定された製品グループの資料を採取します。pp\_groupに指定できる引数と採取される資料を次の表に示します。定義されていない値をpp\_groupに指定した場合、定義されていない製品グループの資料は採取されません。

表 4-2 -g オプションに指定できる引数と採取される資料

#	-g オプションに指定できる引数	採取される資料
1	common	OS やミドルウェアなどソフトウェアの種類に関係なくシステム共通で必要な資料
2	os	OS および OS ベンダのミドルウェアや OS 付属ソフトウェアで必要な資料

注 採取される資料の詳細については、「付録 A. 採取資料一覧」を参照してください。

**-t** *target*

指定された種類の資料を採取します。*target* に指定できる引数と採取される資料を次の表に示します。定義されていない値を *target* に指定した場合、定義されていない種類の資料は採取されません。

表 4-3 -t オプションに指定できる引数と採取される資料

#	-t オプションに指定できる引数	採取される資料
1	config	システム構成の管理に必要な資料
2	failure	障害調査（初期切り分け）に必要な資料

注 採取される資料の詳細については、「付録 A. 採取資料一覧」を参照してください。

-g および -t のオプションは、それぞれ複数回指定できます。また、-g オプションおよび -t オプションを組み合わせ指定できます。オプションを複数指定した場合、同一のオプション間には OR 条件（図 4-1）、異なるオプション間には AND 条件（図 4-2）で一致する資料が採取されます。

（例 1）-g を複数指定した場合

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -g common -g os
```

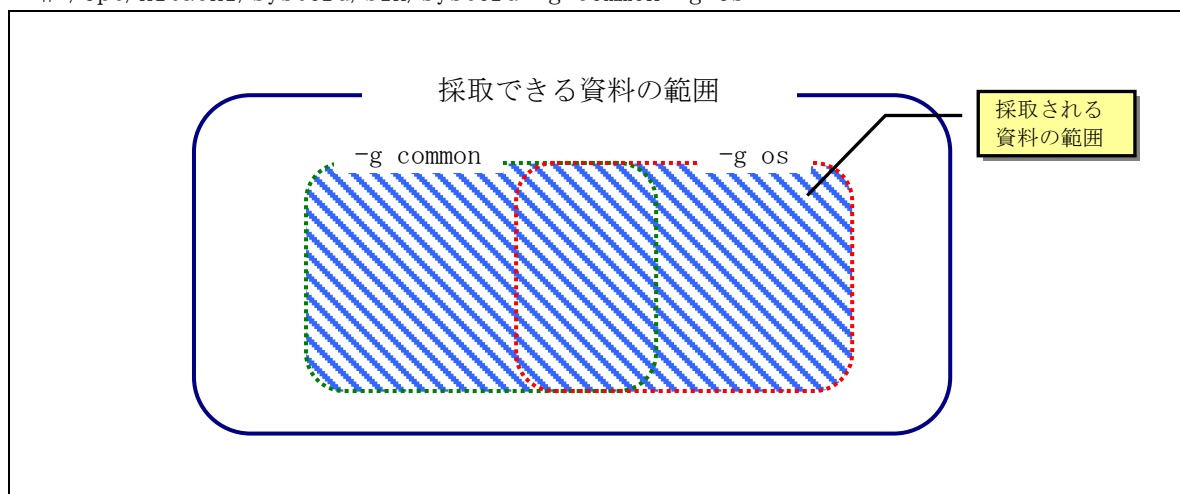


図 4-1 -g を複数指定した場合に採取される資料の範囲



(例2) -g と-t を同時に指定した場合

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -g common -t config
```

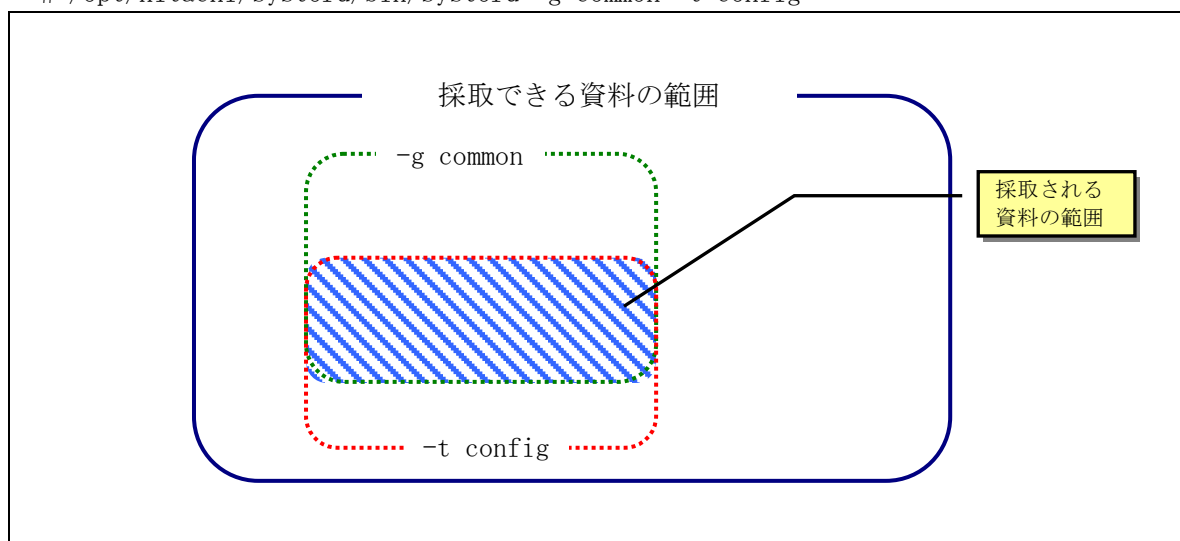


図 4-2 -g と-t を同時に指定した場合に採取される資料の範囲

#### 注意

- IT Report Utility の実行時、OR 条件となる引数を複数指定した場合、指定できる引数に合致する資料だけが採取されます。「指定できる引数(定義済みの引数)」と「指定できない引数(未定義の引数)」を同時に指定した場合、「指定できる引数」に該当する資料だけが採取されます。このとき、警告などのメッセージは表示されません。

#### (2) その他のオプション

-o *output\_file*

採取資料として出力されるファイル名を絶対パスで指定します。拡張子は systoru コマンドが自動的に付加します。systoru コマンドが付加する拡張子は「.tar.Z」です。

#### 注意

- o オプションでは、ファイル名を絶対パスで指定してください。相対パスによる指定はできません。
- o オプションの指定を省略した場合、構成定義ファイルの SYSTORU\_DATA\_DIRECTORY に設定したディレクトリに、採取資料が出力されます。ファイル名は次のようになります。

<SYSTORU\_DATA\_DIRECTORY に設定したディレクトリ>/<ホスト名>\_YYMMDDhhmmss.tar.Z

<ホスト名>・・・systoru コマンドを実行したサーバのホスト名

YYMMDD・・・systoru コマンドを実行した年月日

hhmmss・・・systoru コマンドを実行した時分秒

構成定義ファイルの SYSTORU\_DATA\_DIRECTORY 部分が既定（デフォルト）の状態では、次のディレクトリに採取資料が出力されます。

/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名>\_YYMMDDhhmmss.tar.Z

-c *configfile*

ユーザが作成した構成定義ファイルを使用する場合、そのファイル名を絶対パス

またはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。

構成定義ファイルの詳細については、「5. 2 構成定義ファイル」を参照してください。

#### 注意

- `-c` オプションの指定がない場合、次の構成定義ファイルが使用されます。  
/etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru\_conf

#### `-d directory`

systoru コマンドのデータディレクトリ（採取資料を一時的に一時所に収集するための作業場所）を指定します。

データディレクトリには、既存のディレクトリを絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。

`-d` オプションを省略した場合、構成定義ファイルの制御変数 SYSTORU\_DATA\_DIRECTORY に指定されているディレクトリを systoru コマンドのデータディレクトリとして使用します。データディレクトリの変更の詳細については、「5. 3. 1 データディレクトリを設定、変更する方法」を参照してください。

#### 注意

- `-d` オプションの指定がなく、構成定義ファイルの制御変数 SYSTORU\_DATA\_DIRECTORY を変更していない場合、次のディレクトリがデータディレクトリとして使用されます。  
/var/opt/hitachi/systoru/data

#### `-h`

systoru コマンドのバージョンと使用方法を標準出力に表示します。`-h` オプションが指定された場合、一緒に指定されたほかのオプションはすべて無視されます。

### 4. 5. 3 実行状況の画面表示

IT Report Utility では、進捗状況が次の表に示す4つのフェーズに分けて、プログレスバーで画面に表示されます。

表 4-4 プログレスバーで進捗を表す4つのフェーズ

#	フェーズ名	systoru コマンドの処理内容
1	initialize	コマンドオプション解析、構成定義ファイル読み込み、採取資料の選択など
2	collect	採取ツールの実行、ファイルおよびディレクトリの採取など
3	archive	採取資料のアーカイブおよび圧縮処理
4	cleanup	systoru コマンドが生成した一時ファイルや中間ファイルの削除など

プログレスバーの表示例を次の図に示します。

```
# systoru -t config
collect :*****
```

図 4-3 systoru コマンドが画面に表示するプログレスバー

#### 4. 5. 4 終了コード（戻り値）

systoru コマンドの終了コードは、採取資料（出力ファイル）の最終形態によって変わります。systoru コマンドが返却する終了コードを次の表に示します。

表 4-5 systoru コマンドの終了コード

#	systoru コマンドの終了状態	採取資料の最終形態	終了コード（戻り値）
1	アーカイブ、圧縮に成功	圧縮ファイル	0
2	圧縮が不要、または圧縮に失敗 (アーカイブ成功)	アーカイブファイル	10
3	アーカイブ、圧縮に失敗 (資料収集成功)	データディレクトリ配下の ファイル群	20
4	上記以外	この項の「注意」を参照し てください。	255

注 終了コードを確認するためには、systoru コマンドを実行直後に「echo \$?」と実行してください。

#### 注意

- systoru コマンドの終了コードが255の場合、採取資料の形態は構成定義ファイルで定義する SYSTORU\_CLEANUP の設定に依存します。SYSTORU\_CLEANUP の設定がOFFの場合は、終了した時点での資料が残る場合があります。SYSTORU\_CLEANUP の設定がONの場合は、終了した時点での資料が削除されます。クリーンアップ方針の設定方法については、「5. 3. 3 クリーンアップ方針を設定、変更する方法」を参照してください。

#### 4. 5. 5 systoru コマンドの出力ファイル（採取資料）

IT Report Utility の資料採取が正常に終了すると、採取した複数の資料を1ファイルにアーカイブし、さらに圧縮したファイルがシステム上に出力されます。アーカイブされる資料を次の図に示します。

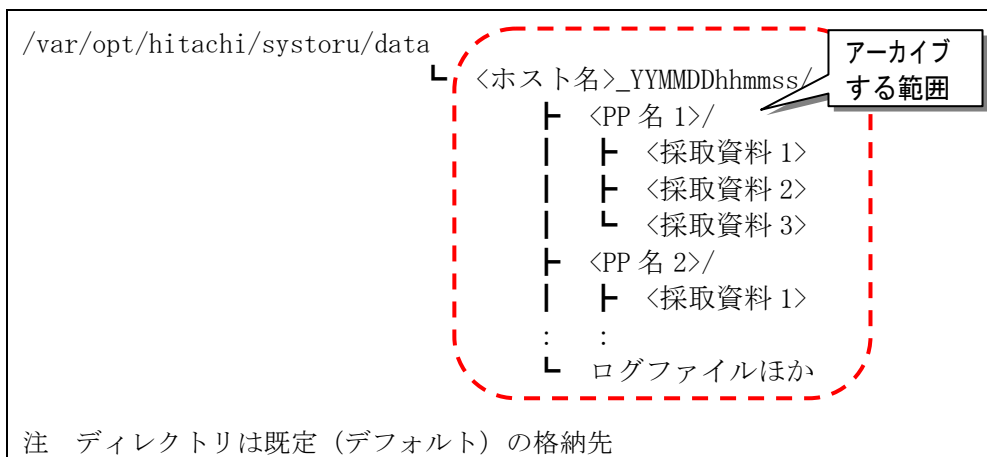


図 4-4 systoru コマンドがアーカイブするファイルおよびディレクトリ

IT Report Utilityが実施するアーカイブおよび圧縮の方法を次に示します。

- アーカイブの方法：OSのtarコマンドでアーカイブ
- 圧縮の方法：OSのcompressコマンドで圧縮
- 出力ファイルの拡張子：tar.Z

最終的にファイルが生成されると、次の図に示すように出力ファイル名が画面に表示されます。

```

# systoru -t config
cleanup :*****
KAIS214-I:Output file = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070911194921.tar.Z, size = 131790 bytes.

```

systoru コマンドが生成したファイル名（アーカイブ+圧縮）      ファイルのサイズ

図 4-5 systoru コマンド終了時に画面に表示される生成ファイル名の例

なお、圧縮やアーカイブができなかった場合、次の表に示すように、出力ファイルが残された状態で、出力ファイルの格納場所が表示されます。表示されたファイル、またはディレクトリを採取資料として取得してください。

表 4-6 圧縮またはアーカイブ失敗時の生成ファイル

#	エラーの内容	出力ファイルの形態	採取資料の場所
1	圧縮が不要, または圧縮に失敗	アーカイブファイル	データディレクトリの下 または-o オプションで指 定したファイル
2	アーカイブに失敗	ファイルおよびディレクトリ	データディレクトリの下

圧縮が失敗した場合の表示例を次の図に示します。

```
# systoru -t config
archive :*****
KAIS135-W:An error occurred while a compression was being executed. ← 圧縮に失敗したことを示すメッセージ
KAIS306-I:The archive file has not been compressed. Use a following file as is.
KAIS211-I:Archive file = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070911202031.tar. size = 983040 bytes.
                                     └────────────────────────────────────────┘ └──────────┘
                                     systoru コマンドが生成したファイル名 (アーカイブファイル)   ファイルのサイズ
```

図 4-6 圧縮が失敗した場合の表示例

圧縮が不要だった場合の表示例を次の図に示します。

```
# systoru -t config
archive :*****
KAIS306-I:The archive file has not been compressed. Use a following file as is.
KAIS211-I:Archive file = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070911202031.tar. size = 983040 bytes.
                                     └────────────────────────────────────────┘ └──────────┘
                                     systoru コマンドが生成したファイル名 (アーカイブファイル)   ファイルのサイズ
```

図 4-7 圧縮が不要だった場合の表示例

アーカイブが失敗した場合の表示例を次の図に示します。

```
# systoru -t config
archive :*****
KAIS132-W:An error occurred while an archiver was being executed. ← アーカイブに失敗したことを示すメッセージ
KAIS215-I:Output = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070911202352.
                                     └────────────────────────────────────────┘
systoru コマンドが生成したファイルおよびディレクトリの存在するディレクトリ名(データディレクトリ下のサブディレクトリ)
```

図 4-8 アーカイブが失敗した場合の表示例

#### 注意

- アーカイブ前の出力ファイルを含むディレクトリを tar コマンドでアーカイブする場合、リンク先のファイルをアーカイブファイルに含めるため、次のコマンドを実行してください。

```
# tar chf <アーカイブファイル名> <ディレクトリ名>
```

#### 4. 5. 6 systoruコマンド実行中の注意事項

##### (1) 採取資料（出力ファイル）に関する注意事項

- systoru コマンド実行時に Error や Warning が表示されても、最終的にファイルの出力先が画面に表示されれば、そのシステム環境で採取できる資料は採取できています。画面に表示される出力ファイルを取得してください。

systoru コマンドの実行で消費するディスクの容量の上限に達したため、一部の資料が採取できなかったが、採取できる範囲で資料採取が完了した場合の画面表示例を次に示します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t config
cleanup :*****
KAIS131-W:The size of the output data exceeded a limit size.
KAIS214-I:Output file = /var/opt/hitachi/systoru/data/hostname_070914210315.tar.Z. size = 25106 bytes.
```

図 4-9 systoru コマンドを実行した時の表示例（ディスク容量が上限に達した場合）

- 資料が採取できているかどうかを確認するには、解凍および展開した採取資料と「付録 A. 採取資料一覧」を比較してください。もし採取されていない資料がある場合は、解凍および展開した採取資料の中に含まれる実行ログファイル（systoru.log）に、資料が採取できない理由が記録されている場合があります。
- IT Report Utility では、アーカイブ処理および圧縮処理に OS が提供する tar コマンド、および compress コマンドを使用します。tar コマンドや compress コマンドでエラーが発生した場合、IT Report Utility はアーカイブエラー、または圧縮エラーとなって終了します。また、何らかの要因で tar コマンドまたは compress コマンドの処理が完了しないと、次に示す画面の状態が続きます。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -g os
archive :*****
```

図 4-10 systoru コマンドを実行した時の表示例 (tar コマンドまたは compress コマンドの処理が完了しない場合)

このような状況になった場合には、Ctrl+C (SIGINT または SIGTERM) で systoru コマンドを中断し、採取資料の出力先ディレクトリの書き込み可能状態、および空き容量を確認してください。アーカイブや圧縮に失敗した場合の出力ファイルについては、「4. 5. 5 systoru コマンドの出力ファイル（採取資料）」を参照してください。

- 採取資料のアーカイブ中にディスクの空き容量がなくなると、tar コマンドが応答待ちになることがあります。その場合は ENTER キーを押下し、tar コマンドに応答してください。対処方法の詳細については、「6. 5. 2 systoru コマンド実行中のトラブル」を参照してください。
- IT Report Utility は、システム上のファイルやディレクトリを採取する際、データディレクトリの下に採取対象ファイルへのシンボリックリンクを作成し、その後、シンボリックリンク

先のファイルをアーカイブします。シンボリックリンク作成後、アーカイブ処理の前に、シンボリックリンク先のファイルが削除された場合、tar コマンドがエラーとなり、アーカイブ失敗と判断されます。このような場合は、アーカイブ前の出力ファイルを採取資料として取得してください。

- アーカイブ前の出力ファイルを含むディレクトリを tar コマンドでアーカイブする場合、リンク先のファイルをアーカイブファイルに含めるため、次のコマンドを実行してください。  

```
# tar chf <アーカイブファイル名> <ディレクトリ名>
```
- IT Report Utility で起動する採取ツールは、運用環境によってエラーメッセージ（標準エラー出力）を記録することがあります。エラーメッセージは、コマンドが通常時に出力する情報（標準出力）と同一のファイルに記録されますが、端末（コマンドライン）からコマンドを実行した場合と比べて、標準出力・標準エラー出力の順序が入れ替わることがあります。エラーメッセージを確認する場合は、順序性が必ずしも一致しない場合があることを考慮に入れて解析してください。もし、解析できない場合には、IT Report Utility の入手元から提示された連絡先にご相談ください。

## （2）中断操作に関する注意事項

- systoru コマンド実行中、何らかの理由で systoru コマンドの処理を中断したい場合は、Ctrl+C（SIGINT または SIGTERM）による中断操作を実施してください。kill シグナル（SIGKILL）送信による強制終了処理は、中断操作で終了しない場合だけ実行してください。

なお、IT Report Utility に SIGKILL を送信した場合、IT Report Utility から起動されたプロセスが終了しない可能性があります。その場合は SIGKILL を送信後、systoru.log の末尾を参照してください。「KAIS202-I:Started ~」と「KAIS203-I:Ended ~」が対で記録されていない場合は、該当するプロセスが残存している可能性がありますので、systoru.log からプロセス名と起動時刻を確認し、それを基に ps コマンドで該当プロセスが存在していないか確認してください。存在していた場合は、該当プロセスのプロセスグループに対して SIGINT または SIGTERM を送信して停止するか、該当プロセスのプロセスツリーをたどって個別に SIGINT または SIGTERM を送信して停止してください。SIGINT または SIGTERM の送信で停止しない場合は、SIGKILL を送信してください。SIGKILL を送信すると、それまで採取した資料が中間ファイルとしてシステム上に残る場合があります。「4. 5. 5 systoru コマンドの出力ファイル（採取資料）」を参照して、採取資料を取得または削除してください。

プロセスグループ (PGID) に対してシグナルを送信する例を次に示します。動作中プロセスの PGID の確認方法については、ps コマンドのオンラインマニュアルを参照してください。

（例）PGID 1000 で動作中のプロセスグループに SIGTERM を送信する場合

```
# kill -SIGTERM -1000
```

なお、採取資料のアーカイブ、圧縮処理中に SIGKILL によって停止した場合は、systoru.log の内容を参照して次のように対処してください。

- 「KAIS202-I:Started making.」に対する「KAIS203-I:Ended making.」が記録されていない場合、tar または compress が残存していないか ps コマンドで確認してください。残存していた場合は、該当プロセスの PID に SIGKILL を送信して停止してください。
- 「KAIS202-I:Started cleaning.」に対する「KAIS203-I:Ended cleaning.」が記録されてい

ない場合、rm が残存していないか ps コマンドで確認してください。残存していた場合は、該当プロセスのPIDにSIGKILLを送信して停止してください。

### (3) トラブル時の対処に関する注意事項

- 構成情報の資料採取で、期待した資料が採取できない場合は、「6. トラブルの対処方法」に記載された対処を行ったあと、IT Report Utilityによる資料採取、または「付録A. 採取資料一覧」を参考に別の手段で資料採取を行ってください。
- 障害時の資料採取で、期待した資料が採取できない場合は、「付録A. 採取資料一覧」を参考に別の手段で資料採取を行うなど、先に発生している障害の解決を最優先としてください。先に発生している障害の原因究明および対策が完了次第、IT Report Utilityの問題解決を実施してください。

### (4) コマンドラインから直接実行する以外の方法に関する注意事項

- IT Report Utilityは、システムの障害などの影響によって、実行途中で停止するおそれがあります。コマンドラインから直接実行する以外の方法でIT Report Utilityを起動する場合、実行時間の監視（タイマ監視）を行うようにしてください。監視時間は、IT Report Utilityをコマンドラインから直接実行した場合の所要時間に安全係数（1.5～2倍程度）を掛けた値を目安としてください。

設定した監視時間を経過してもIT Report Utilityが終了しない場合は、SIGINTまたはSIGTERMを送信して停止してください。SIGINTまたはSIGTERMを送信しても終了しない場合は、SIGKILLを送信して停止してください。ただし、SIGKILLを送信すると、IT Report Utilityから起動されたプロセスが終了しない場合があります。IT Report Utilityの中断操作については、「(2) 中断操作に関する注意事項」を参照してください。



## 5. 既定（デフォルト）動作の設定，変更方法

### 5. 1 既定（デフォルト）動作を設定，変更する方法

IT Report Utility では，次の2種類の方法で既定（デフォルト）動作を設定（変更）できます。

- 構成定義ファイルに動作を設定する
- systoru コマンド実行時にオプションを指定する

設定（変更）可能な systoru コマンドの動作のうち，どちらか1つの方法でだけ実施できる設定と，どちらの方法でも実施できる設定とがあります。systoru コマンドの動作および設定，変更方法を次の表に示します。

表 5-1 systoru コマンドの動作と設定，変更方法

#	systoru コマンドの動作	設定，変更方法		参照先
		構成定義ファイル	オプション指定	
1	データディレクトリの場所*	○	○	5. 3. 1
2	出力ファイル（圧縮ファイル）の出力先と名前	×	○	5. 3. 2
3	中断時または処理続行不可時のクリーンアップ方針	○	×	5. 3. 3
4	採取資料の出力サイズの上限值	○	×	5. 3. 4
5	構成定義ファイルの場所と名前	×	○	5. 3. 5

注※ 構成定義ファイルとオプションの両方で指定された場合，オプション指定の方が優先されます。

以降，5. 2節で構成定義ファイルについて説明し，5. 3節で具体的な systoru コマンドの既定動作の設定および変更方法を示します。5. 4節では systoru コマンドの動作を設定する際の考え方について説明します。

### 5. 2 構成定義ファイル

構成定義ファイル `systoru_conf` は，systoru コマンドの動作を設定するためのファイルです。systoru コマンドは，`-c` オプションでの指定がない場合，次の場所の構成定義ファイルが使用されます。

```
/etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru_conf
```

構成定義ファイルは利用者がカスタマイズできるだけでなく，利用者がファイル名および格納先ディレクトリを変更できます。その場合，systoru コマンド実行時に`-c` オプションで構成定義ファイルを指定してください。

なお，構成定義ファイルのテンプレート（初期設定）ファイルは次の場所にあります。

```
/opt/hitachi/systoru/template/systoru_conf
```

## 5. 2. 1 構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）と動作内容

構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=/var/opt/hitachi/systoru/data・・・①
SYSTORU_CLEANUP=OFF・・・②
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=512000・・・③
```

図 5-1 構成定義ファイルの既定値（デフォルト値）

構成定義ファイルで systoru コマンドの既定（デフォルト）動作を設定できる項目を次の表に示します。

表 5-2 構成定義ファイルで設定できる項目と既定値（デフォルト値）の設定

#	制御変数名	設定内容	既定（デフォルト）値
①	SYSTORU_DATA_DIRECTORY	systoru コマンドのデータディレクトリ	データディレクトリの既定値は /var/opt/hitachi/systoru/data です。ただし、systoru コマンドで -d オプションによりデータディレクトリを指定した場合はそちらが優先されます。
②	SYSTORU_CLEANUP	systoru コマンドが中断もしくはエラー終了した場合に、データディレクトリに採取した資料を残すか、残さないかの設定	既定値は OFF（残す）です。採取処理が中断した場合でも、それまで採取した資料はデータディレクトリ上に残ります。
③	SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE	中間ファイルも含め、1 回の systoru コマンドの実行で消費するディスク容量の上限値を設定。単位は KB。	既定値は 512000（500MB）です。

## 5. 2. 2 構成定義ファイルに設定できる値

構成定義ファイルの各制御変数と設定できる値を次の表に示します。

表 5-3 構成定義ファイルで設定できる値

#	制御変数名	設定できる値
①	SYSTORU_DATA_DIRECTORY	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存のディレクトリの絶対パスを半角英数字 260 文字以内で指定します。日本語を含むディレクトリを指定できません。</li> <li>パス名の途中に空白文字が入る場合でもそのまま記述します。前後を「"」（ダブルクォーテーション）で囲む必要はありません。</li> <li>設定できるのは、ローカルファイルシステムだけです。ネットワークファイルシステムやリムーバブルディスクなどはサポートしていません。</li> </ul>
②	SYSTORU_CLEANUP	<ul style="list-style-type: none"> <li>systoru コマンドが中断またはエラー終了した際に、データディレクトリに採取した資料を残す場合は OFF、残さない場合は ON を指定します。</li> <li>ON または OFF は、必ず大文字で指定してください。</li> </ul>
③	SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 回の systoru コマンドの実行で消費するディスク容量の上限値を KB 単位 (1KB=1,024 バイト) で指定します。</li> <li>上限値を設定したくない場合は、0 または -1 を設定してください。</li> </ul>

各制御変数に共通する注意事項を次に示します。

- 各制御変数は 2 行以上にわたって記述することはできません。
- 変数や値の前後および「=」の前後に空白文字を入れることはできません。
- 各制御変数は値（右辺）だけを省略できません。

表 5-3 に示す以外の不正な値を設定した場合、次の図に示すメッセージが出力され資料採取は実行されません。このようなメッセージが出力された場合は、構成定義ファイルを編集し直すか、構成定義ファイルのテンプレートをコピーして編集してください。

```
KAIS119-E:A syntax error occurred.
KAIS120-E:filename = /etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru_conf, line no = 1.
```

図 5-2 構成定義ファイルの書式が不正だった場合の例

### 5. 3 既定動作の設定例

ここでは、具体的な `systoru` コマンドの動作を設定、変更する方法について示します。

#### 5. 3. 1 データディレクトリを設定、変更する方法

データディレクトリを設定、変更するには、構成定義ファイルで指定する方法と、`systoru` コマンドのオプションで指定する方法の2つの方法が使用できます。両方で指定された場合、`systoru` コマンドのオプションで指定された方が優先されます。

##### (1) 構成定義ファイルで指定する

構成定義ファイルで定義する `SYSTORU_DATA_DIRECTORY` で、データディレクトリのパス名を指定できます。ただし、定義するデータディレクトリはシステム上に存在している必要があります。`SYSTORU_DATA_DIRECTORY` の詳細については、「5. 2 構成定義ファイル」を参照してください。構成定義ファイルで、データディレクトリのパス名を `/tmp/systoru_data` に設定する例を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=/tmp/systoru_data
SYSTORU_CLEANUP=OFF
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=512000
```

図 5-3 データディレクトリに `/tmp/systoru_data` を設定する例（構成定義ファイル）

##### (2) `systoru` コマンドのオプションで指定する

`systoru` コマンドの `-d` オプションにデータディレクトリのパス名を、絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定します。`systoru` コマンドで、データディレクトリのパス名を `/tmp/systoru_data` に設定する例を次の図に示します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t config -d /tmp/systoru_data
```

図 5-4 データディレクトリとして `/tmp/systoru_data` を設定する例（`systoru` コマンド）

#### 5. 3. 2 採取資料の出力先およびファイル名を設定、変更する方法

##### (1) `systoru` コマンドのオプションで指定する

採取資料の出力先と出力ファイルの名前は、`systoru` コマンドの `-o` オプションで指定できます。`-o` オプションに続けて出力ファイル名を絶対パス名で指定します。相対パスは指定できません。`systoru` コマンドで、採取資料の出力先を `/tmp/systoru_data/systoru070918` に設定する例を次の図に示します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t config -o /tmp/systoru_data/systoru070918
```

図 5-5 出力ファイル名に `/tmp/systoru_data/systoru070918` を設定する例（`systoru` コマンド）

なお、資料採取で使用するディレクトリはデータディレクトリになります。データディレクトリを

設定、変更する方法については、「5. 3. 1 データディレクトリを設定、変更する方法」を参照してください。

### 5. 3. 3 クリーンアップ方針を設定、変更する方法

#### (1) 構成定義ファイルで指定する

構成定義ファイルで定義する SYSTORU\_CLEANUP で、systoru コマンドを中断した場合や続行できないエラーが発生した場合に、systoru コマンドがそれまで採取した資料をシステム上に残すか残さないかを選択できます。採取資料を残す場合は OFF (既定値)、残さない場合は ON を設定します。クリーンアップ方針は構成定義ファイルでだけ設定できます。構成定義ファイルで設定する SYSTORU\_CLEANUP の詳細については、「5. 2 構成定義ファイル」を参照してください。構成定義ファイルで、資料をシステム上に残さない設定をする場合の例を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=/var/opt/hitachi/systoru/data  
SYSTORU_CLEANUP=ON  
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=512000
```

図 5-6 資料をシステム上に残さない設定をする場合の例 (構成定義ファイル)

### 5. 3. 4 資料採取で消費するディスク容量の上限値を設定する方法

#### (1) 構成定義ファイルで指定する

構成定義ファイルで定義する SYSTORU\_MAX\_OUTPUT\_DATA\_SIZE で、systoru コマンドが 1 回の実行で消費するディスク容量の上限値を設定できます。消費するディスク容量には、最終的な出力ファイルだけでなく、資料採取中に一時的に作成される中間ファイルのサイズも含まれます。消費するディスク容量の上限値は構成定義ファイルでだけ設定できます。構成定義ファイルで設定する SYSTORU\_MAX\_OUTPUT\_DATA\_SIZE の詳細については、「5. 2 構成定義ファイル」を参照してください。構成定義ファイルで消費するディスク容量を 20MB (20480KB) に設定する例を次の図に示します。

```
SYSTORU_DATA_DIRECTORY=/var/opt/hitachi/systoru/data  
SYSTORU_CLEANUP=ON  
SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE=20480
```

図 5-7 消費するディスクの上限値を 20MB (20480KB) に設定した場合の例 (構成定義ファイル)

### 5. 3. 5 利用者が作成した構成定義ファイルを利用する方法

#### (1) systoru コマンドのオプションで指定する

systoru コマンド実行時にインストールされた構成定義ファイルではなく、利用者が作成した構成ファイルを利用する場合は、systoru コマンドの -c オプションで、使用する構成定義ファイルを指定します。構成定義ファイル名は絶対パスまたはカレントディレクトリからの相対パスで指定しま

す。構成定義ファイルを指定した `systoru` コマンドの実行例を次の図に示します。

```
# /opt/hitachi/systoru/bin/systoru -t config -c /var/tmp/work/systoru.conf
```

図 5-8 構成定義ファイル `/var/tmp/work/systoru.conf` を指定した例 (`systoru` コマンド)

## 5. 4 既定値設定の考え方

ここでは、`systoru` コマンドの動作を設定する際の、各設定項目の考え方について説明します。

### 5. 4. 1 データディレクトリ (SYSTORU\_DATA\_DIRECTORY)

データディレクトリは、IT Report Utility が資料採取に使用するディレクトリです。インストール直後の構成定義ファイルでは、次の場所に設定されています。

```
/var/opt/hitachi/systoru/data
```

出力ファイル (採取資料) は、システムリソースの1つであるディスクを消費するため、システムの動作に影響を与えるおそれがあります。あらかじめディスクの空きが十分ある場所を、IT Report Utility のデータディレクトリとして設定することを推奨します。ただし、データディレクトリとして設定できるのは、ローカルファイルシステムだけです。ネットワークファイルシステムやリムーバブルディスクなどはサポートしていません。

### 5. 4. 2 クリーンアップ方針 (SYSTORU\_CLEANUP)

クリーンアップ方針は、IT Report Utility が中断したり異常終了したりした際に、それまで採取した資料をシステム上に残すかどうかを決定する設定です。インストール直後の構成定義ファイルでは、OFF (採取した資料はシステム上に残す) に設定されています。

「採取できたものだけでも活用する」という考え方や、「不完全な資料は必要ない」「ゴミとして残したくない」という考え方があり、どちらがよいかは一長一短です。システムの管理方針に基づき個々に設定をご検討ください。

**参考：**既定値の設定が OFF の理由

IT Report Utility の活用目的の1つに「障害調査」があります。既定値の設定が OFF (採取した資料はシステム上に残す) であるのは、コマンドを実行したその瞬間しか採取できない資料が採取できているケースがあるため、消さないで残しておいた方がよい、という考えに基づくものです。

### 5. 4. 3 資料採取で消費するディスク容量の上限値 (SYSTORU\_MAX\_OUTPUT\_DATA\_SIZE)

資料採取で消費するディスク容量の上限値には、資料採取の処理の中で一時的に生成される中間ファイルを含め、これ以上ディスクを消費させたくない値を設定します。

この設定は、ディスクの空き容量確保を保証するものではありません。上限値の設定に当たっては事前に十分な検証を行い、システム環境に合った上限値を設定するようにしてください。インストール直後の構成定義ファイルでは、512000 (500MB) に設定されています。

なお、この値は `systoru` コマンド 1 回の実行で消費するディスク容量の上限値です。複数回実行するとディスク圧迫の原因になります。`systoru` コマンドを複数回実行する場合は、資料採取で消費するディスク容量の上限値の設定に加えて、次のような対処をしてください。

- 採取資料を別のディレクトリや媒体に退避させる
- 不要になった採取資料を削除する

## 6. トラブルの対処方法

### 6. 1 トラブル対処時の留意点

障害時の資料採取で、IT Report Utility で期待した資料が採取できない場合は、「付録 A. 採取資料一覧」を参考に別の手段で採取を行うなど、**発生している障害の解決を最優先**としてください。発生している障害の原因究明および対策が完了次第、IT Report Utility の問題解決を実施してください。

### 6. 2 ログファイルの種類と場所

IT Report Utility は、systoru コマンド実行時にトラブルシュートを目的したログファイルを出力します。ログファイルには、systoru コマンド 1 回分のログを記録する実行ログファイルと、systoru コマンド 1 回分の簡易ログを累積して記録する実行履歴ログファイルがあります。

#### 6. 2. 1 実行ログファイル

実行ログファイルには次に示す情報が出力されます。

- systoru コマンド実行時のトレース情報
- systoru コマンドによる資料の採取状況

出力形式はテキストファイルで、2 世代分のログファイルがシステム上に管理され、systoru コマンドが実行されるたびに世代間でファイルが置き換わります。実行ログファイルのファイル名を次の表に示します。

表 6-1 systoru コマンドの実行ログファイルのファイル名

#	世代	ファイル名
1	現行	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru.log
2	1 世代前	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_old.log

注 初回起動時は systoru\_old.log は存在しません。

#### 6. 2. 2 実行履歴ログファイル

実行履歴ログファイルは、systoru コマンドの開始終了時間、systoru コマンドの終了コード、採取資料の出力ファイル名が 1 行ごとに記録されます。出力形式はテキストファイルで、2 世代分のログファイルがシステム上に管理されます。10,240 バイトを上限とし、これを超えると世代間でファイルが置き換わります。実行履歴ログファイルのファイル名を次の表に示します。

表 6-2 systoru コマンドの実行履歴ログファイルのファイル名

#	世代	ファイル名
1	現行	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_hist.log
2	1 世代前	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_hist_old.log

注 初回起動時は systoru\_hist\_old.log は存在しません。現行のログが 10,240 バイトを最初に超えた時に作成されます。



### 6. 3 トラブルシューティングに必要な資料

systoru コマンド自身で発生した「実行不可」や「ハングアップ」のような問題の初期切り分けを行うために必要な資料を次に示します。なお、**資料の取得は root ユーザで実施**します。

- 実行ログファイル, 実行履歴ログファイル (/var/opt/hitachi/systoru/log 以下のファイルすべて)
- 使用している構成定義ファイル (-c オプションで明示的に指定していない場合は /etc/opt/hitachi/systoru/systoru\_conf)
- systoru コマンドの出力ファイル (採取資料が存在する場合)
- 次のコマンドの実行時の標準出力および標準エラー出力の内容

```
# swlist
# swlist -l bundle -l product
# swlist -l product -v hitachi-sys-info-collection-tool
# ls -lRa /opt/hitachi/systoru
# ls -lRa /etc/opt/hitachi/systoru
# ls -lRa /var/opt/hitachi/systoru
# ps -elf
```

### 6. 4 インストール, アンインストール時のトラブルシューティング

ここでは, IT Report Utility のインストール, アンインストールに関するトラブルの対処方法について説明します。

- (1) swinstall コマンドでインストールを実施すると, 「ERROR: "(ホスト名):/": You do not have the required permissions to select this target.」というメッセージが表示されインストールに失敗する。

#### 原因

root ユーザ以外でインストールしようとしています。

#### 対処

root ユーザでログインし, 再度インストールを実施してください。

- (2) swinstall コマンドでインストールを実施すると, 「"(ホスト名):/": This target or source is already in use either within this same session or by another session. A read or write lock was denied.」というメッセージが表示されインストールに失敗する。

#### 原因

同時にインストールを実行しています。

#### 対処

いったんアンインストールした上で, 再度インストールを実施してください。

- (3) インストール中にディスクの空き容量がなくなり, インストール処理が中断してしまった。

#### 対処

それまでインストールしたファイルがシステム上に残っているおそれがあります。残ってい

るファイルを手動で削除し、ディスクの空き容量を確保した上で、再度インストールを実施してください。

- (4) `swinstall` コマンドにてインストール中、または `swremove` コマンドにてアンインストール中にエラーが発生した。

#### 対処

インストール中やアンインストール中のエラーについては、次のログを参照してください。

`/var/adm/sw/swinstall.log`

`/var/adm/sw/swagent.log`

`/var/adm/sw/swremove.log`

- (5) アンインストールを実行したが、ディレクトリやファイルが残ってしまった。

#### 原因

次の原因が考えられます。

- ・利用者が作成したファイルまたはディレクトリが存在しています。
- ・構成定義ファイルをカスタマイズして別名で保存しています。

#### 対処

不要なファイルやディレクトリをシステムから完全に削除したい場合、次のディレクトリ以下を手動で削除してください。

・ `/opt/hitachi/systoru`

・ `/etc/opt/hitachi/systoru`

・ `/var/opt/hitachi/systoru`

- (6) 誤って構成定義ファイルを消してしまった。

#### 対処

次のファイルをコピーして使用してください。

`/opt/hitachi/systoru/template/systoru_conf`

- (7) 誤って構成定義ファイル以外のファイルを消してしまった。または、壊れてしまった。

#### 対処

修復インストールを実施してください。

## 6. 5 systoruコマンド実行時のトラブルシューティング

ここでは、`systoru` コマンド実行に関するトラブルの対処方法について説明します。

### 6. 5. 1 systoruコマンド起動直後のトラブル

- (1) 一般ユーザで `systoru` コマンドが実行できない。

#### 原因

`systoru` コマンドは、`root` ユーザ以外では実行できません。

**対処**

root ユーザでログインし、再度 systoru コマンドを実行してください。

- (2) systoru コマンド起動時に「KAIS116-E:Another systoru is already running. Please try later.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。

**原因**

ほかの systoru コマンドが実行中です。

**対処**

実行中の systoru コマンドの終了を待つて、再度 systoru コマンドを実行してください。

- (3) systoru コマンド起動時に「KAIS101-E:The specified option(%1) is invalid.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。( %1 : systoru コマンドに指定されたオプション)

**原因**

systoru コマンドに不正なオプションが指定されました。

**対処**

systoru コマンドに指定するオプションを確認し、正しいオプションを指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

- (4) systoru コマンド起動時に「KAIS102-E:The specified option(%1) requires an argument.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。( %1 : systoru コマンドに指定されたオプション)

**原因**

systoru コマンドに引数を必要とするオプションを指定しましたが、引数が指定されていません。

**対処**

systoru コマンドに指定するオプションの引数を確認し、引数を指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

- (5) systoru コマンド起動時に「KAIS104-E:The specified directory(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。( %1 : -d オプションの引数に指定されたデータディレクトリのパス名)

**原因**

-d オプションの引数に指定したデータディレクトリがシステム上に存在しません。

**対処**

-d オプションの引数に指定するデータディレクトリがシステム上に存在するかどうかを確認し、存在するディレクトリを指定して再度 systoru コマンドを実行してください。

- (6) systoru コマンド起動時に「KAIS105-E:You do not have write permissions for the specified directory(%1).」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。( %1 : -d オ

ブションの引数に指定されたディレクトリ名)

**原因**

-d オプションの引数に指定したデータディレクトリに書き込み権限がありません。

**対処**

-d オプションの引数に指定するデータディレクトリに書き込み権限があるかどうかを確認し、書き込み権限があるディレクトリを指定して再度 `systoru` コマンドを実行してください。

(7) `systoru` コマンド起動時に「KAIS106-E:The specified configuration file(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドが終了する。( %1 : ファイル名)

**原因**

`systoru` コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在しません。

**対処**

`systoru` コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在するかどうかを確認し、存在するファイルを指定して、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

(8) `systoru` コマンド起動時に「KAIS109-E:The specified file(%1) already exists.」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドが終了する。( %1 : ファイル名)

**原因**

`systoru` コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在します。

**対処**

`systoru` コマンドのオプションの引数に指定したファイルがシステム上に存在するかどうかを確認し、ファイルが存在した場合は、存在しないファイルを指定して再度 `systoru` コマンドを実行してください。

(9) `systoru` コマンド起動時に「KAIS112-E:You do not have access permissions for the specified file(%1).」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドが終了する。( %1 : ファイル名)

**原因**

`systoru` コマンドのオプションの引数に指定したファイルにアクセスできませんでした。

**対処**

`systoru` コマンドのオプションの引数に指定したファイルのアクセス権限を確認し、適切なアクセス権限を設定したあと、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

(10) `systoru` コマンド起動時に「KAIS115-E:A required option is not specified.」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドが終了する。

**原因**

`systoru` コマンドの実行に必須のオプションが指定されませんでした。

**対処**

-t オプションまたは-g オプションを指定して、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

(11) `systoru` コマンド起動時に「KAIS144-E:The specified output file(%1) must be absolute path

name.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。（%1：出力ファイルのファイル名）

**原因**

-o オプションの引数で指定した出力ファイル名が絶対パス名ではありません。

**対処**

-o オプションの引数に絶対パス名を指定し、再度 systoru コマンドを実行してください。

(12) systoru コマンド起動時に「KAIS145-W: There is not system information because an error occurred during reading of all collection pattern definition files.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。

**原因**

すべての採取パターン定義ファイルで読み込み中にエラーが発生したため、採取する資料がありません。

**対処**

採取パターン定義ファイルを読み取り可能に変更し、再度 systoru コマンドを実行してください。

## 6. 5. 2 systoruコマンド実行中のトラブル

(1) systoru コマンド実行中に「KAIS113-E: An error occurred during the following system call. system call name = %1, error code = 28, msg = No space left on device.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。（%1：システムコール名）

**原因**

ディスクの空き容量がなくなったため、処理を継続できませんでした。

**対処**

ディスクの空き容量を確保した上で、再度 systoru コマンドを実行してください。

(2) systoru コマンド実行中に「KAIS118-E: A configuration file(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。（%1：構成定義ファイルのファイル名）

**原因**

構成定義ファイルが存在しません。

**対処**

構成定義ファイルが存在するかどうかを確認してください。構成定義ファイルがない場合は、構成定義ファイルを作成し、再度 systoru コマンドを実行してください。

(3) systoru コマンド実行中に「KAIS119-E: A syntax error occurred.」「KAIS120-E: filename = %1, line no = %2.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。（%1：構成定義ファイルのファイル名、%2：行番号）

**原因**

構成定義ファイルに構文エラーがあります。

**対処**

該当する行の構文エラーを解決し、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

- (4) `systoru` コマンド実行中に「KAIS121-E:There is not system information to be collected under the specified options.」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドの実行ログファイルだけがアーカイブ、圧縮されたファイルが採取資料として出力される。

**原因**

次のどちらかの原因が考えられます。

- `-g` または `-t` の引数に指定した文字列のスペルが間違っている。
- `-g` または `-t` で指定した範囲に、一致する採取資料がない。

**対処**

`-g` または `-t` に指定した引数を確認し、適切な引数を指定して再度 `systoru` コマンドを実行してください。

- (5) `systoru` コマンド実行中に「KAIS104-E:The specified directory(%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドが終了する。( %1 : ディレクトリ名)

**原因**

`systoru` コマンド実行中に、データディレクトリがシステム上から削除されました。

**対処**

オプションまたは構成定義ファイルで指定したデータディレクトリが存在するかどうかを確認してください。指定したデータディレクトリが存在しない場合は、データディレクトリを再作成するか、別のデータディレクトリを指定した上で、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

- (6) `systoru` コマンド実行中に「KAIS131-W:The size of the output data exceeded a limit size.」というメッセージが画面に表示された。また、最終的にファイルを出力するもすべての採取資料が取得できていない。

**原因**

`systoru` コマンドが資料採取の処理中に生成する中間ファイルの合計サイズが、構成定義ファイルの `SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE` で指定した値の 50%を超えました。

**対処**

次のどちらかの対処を実行してください。

- データディレクトリを含むディスクの空き容量を十分に確保する。
- `SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE` の設定値を見直す。

- (7) `systoru` コマンドを実行したが、予想以上に時間が掛かっている。実行中の `systoru` を途中で止めたい。

**対処**

Ctrl+C (SIGTERM または SIGINT の送信) による中断操作を実施します。Ctrl+C (SIGTERM または SIGINT の送信) による中断操作でもコマンドが終了しない場合だけ、kill シグナル

(SIGKILL) 送信で強制終了してください。

なお、このツールに SIGKILL を送信した場合、ツールから起動されたプロセスが終了しない場合があります。詳細については、「4. 5. 6 (2) 中断操作に関する注意事項」を参照してください。

(8) 本番業務が動作しているが、systoru コマンドが CPU を消費して本番業務に影響が発生している。

#### 対処

renice コマンドを実行して、systoru コマンドおよびその子プロセスの優先度を低く変更してください。

(9) systoru コマンドが原因不明のエラーで実行できない。

#### 対処

ほかの方法で個別に資料を採取してください。障害が発生している場合は、障害の復旧および原因究明を優先し、systoru コマンドのエラーに関する原因究明はあとで実施することを推奨します。ただし、systoru コマンドがシステムに重大な影響を与えているおそれがあるときは、systoru コマンドのエラーに関する調査も同時に実施する必要があります。

(10) systoru コマンド実行中に次のメッセージが表示された。

Tar: end of tape

Tar: to continue, enter device/file name when ready or null string to quit.

#### 原因

採取資料のアーカイブ時に出力先のディスク空き容量がなくなったため、tar コマンドが応答を要求しています。

#### 対処

次の手順で対処してください。

1. ENTER キーだけを押し下し、tar コマンドに応答する。
2. 必要なディスク容量の見積りについて、/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru.log の最後に記録されている「KAIS209-I」メッセージから資料サイズの合計値を調べる。
3. アーカイブ出力先のディスクの空き容量を十分に確保する。おおよその目安は、「KAIS209-I」メッセージで調査した値の2倍強です。

### 6. 5. 3 出力ファイル（採取資料）に関するトラブル

(1) 「KAIS132-W:An error occurred while an archiver was being executed.」というメッセージが表示された。

#### 原因

採取した資料のアーカイブ処理が失敗したため、アーカイブ前のファイルが採取資料として出力されました。

ファイルの出力先を-o オプションで指定していた場合は、指定したファイル名や出力先ディレクトリなどに誤りがあり、アーカイブ処理に失敗している可能性があります。

## 対処

次のどちらかの対処を実施してください。

- 画面に表示されたディレクトリ以下のファイルを採取資料として取得してください。アーカイブ前の出力ファイルを含むディレクトリを tar コマンドでアーカイブする場合、リンク先のファイルをアーカイブファイルに含めるため、次のコマンドラインを実行します。

```
# tar chf <アーカイブファイル名> <ディレクトリ名>
```

- 指定したファイル名 (+ tar) が、指定したディレクトリに作成できるかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。  
ファイルが作成できるかどうかは、例えば touch コマンドで同名のファイルを作成することで確認できます。

- (2) 「KAIS133-W:An attempt to copy the logfile (%1) has failed.」というメッセージが表示された。( %1 : ファイル名)

### 原因

systoru コマンドの実行ログファイルを採取資料として収集するときのコピー処理に失敗しました。

### 対処

出力ファイル（採取資料）と一緒に、次の実行ログファイルを取得してください。

```
/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru.log
```

- (3) 「KAIS135-W:An error occurred while an compression was being executed.」というメッセージが表示された。

### 原因

アーカイブファイルの圧縮処理が失敗したため、圧縮前のファイルが採取資料として出力されました。

ファイルの出力先を -o オプションで指定していた場合は、指定したファイル名や出力先ディレクトリなどに誤りがあり、圧縮処理に失敗している可能性があります。

### 対処

次のどちらかの対処を実施してください。

- 画面に表示されたアーカイブファイルを採取資料として取得してください。
- 指定した圧縮ファイル名 (+ tar.Z) が、指定したディレクトリで作成できるかどうかを確認し、再度コマンドを実行してください。  
圧縮ファイルが作成できるかどうかは、例えば touch コマンドで同名の圧縮ファイルを作成することで確認できます。

- (4) systoru コマンドによるアーカイブおよび圧縮処理中に「KAIS104-E:The specified directory (%1) does not exist.」というメッセージが画面に表示され、systoru コマンドが終了する。( %1 : ディレクトリ名)

### 原因



アーカイブ処理および圧縮処理の途中で、データディレクトリがシステム上から削除されました。

#### 対処

コマンドのオプションまたは構成定義ファイルで指定されたデータディレクトリを確認してください。

データディレクトリが存在しない場合は、再度ディレクトリを作成するか、ほかのデータディレクトリを指定するかして、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

- (5) 「KAIS146-W:An attempt to delete a %1 has failed.」というメッセージが画面に表示された。  
(%1 : 削除できなかったファイル名)

#### 原因

圧縮処理終了後にアーカイブファイルの削除に失敗しました。

#### 対処

削除できなかったアーカイブファイルが使用中ではないことを確認してから、ファイルを手動で削除してください。

## 6. 6 その他のトラブルシューティング

ここでは、`systoru` コマンドに関するそのほかのトラブルの対処方法について説明します。

- (1) `systoru` コマンド実行時または実行中に「KAIS122-E:Memory is insufficient.」というメッセージが画面に表示され、`systoru` コマンドが終了する。

#### 原因

メモリが不足していたため、`systoru` コマンドの処理を続行できませんでした。

#### 対処

メモリの空き容量を増やしてから、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

- (2) `systoru` コマンドを中断した際に「KAIS136-E:systoru was interrupted. signal no = %1」というメッセージが表示された。( %1 : 受信したシグナル番号)

#### 原因

`systoru` コマンドの処理が中断されました。

#### 対処

次のどちらかの対処を実行してください。

- ・ `SYSTORU_CLEANUP` が OFF の場合は、データディレクトリ下の `systoru` 実行時の日時を名前としたサブディレクトリに、それまでに採取したシステム情報が格納されています。必要に応じてこの資料を取得し、不要な場合は削除してください。
- ・ 新たにシステム情報を採取したい場合は、再度 `systoru` コマンドを実行してください。

## 付録A. 採取資料一覧

IT Report Utility が採取する資料を、次の表に示します。

表中に使用されている記号の意味は次のとおりです。

- ・「採取方法」欄の「採取ツール/コマンド」欄が「○」の場合、採取ツールまたはコマンドの出力結果が資料として採取されることを意味します。また、「ファイル/ディレクトリ」欄が「○」の場合は、システム上にあるファイルまたはディレクトリが資料として採取されることを意味します。
- ・「出力ファイル、ディレクトリ」欄のパス名に使用されている「%d%」は、採取資料を展開したときに作成されるディレクトリ（<ホスト名>\_<YYMMDDhhmmss>/PP名）を示します。ディレクトリの詳細については、「4. 4 採取資料の参照方法」を参照してください。
- ・「systoru コマンドの条件オプション」欄が「○」の場合は各オプションを指定して実行した際に資料が採取されることを意味します。また、「-」の場合は資料が採取されないことを意味します。
- ・資料名の横に「(v2)」, 「(v3)」の表記がある場合は、それぞれHP-UX 11i v2, HP-UX 11i v3 でだけ採取できる資料です。

なお、表 A-1 に示す資料はシステム環境によっては存在しない場合もあります。

表 A-1 IT Report Utility (HP-UX 版) 採取資料一覧

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
1	ハード ウェア 情報	ハードウェアモデル	○		/usr/bin/model	%d%/model.txt	○	○	○	○
2		マシン情報	○		/usr/contrib/bin/machinfo	%d%/machinfo.txt	○	○	○	○
3		ブート領域情報	○		/usr/sbin/setboot	%d%/setboot.txt	○	○	○	○
4		ハードウェアパーティションの 構成	○		/usr/sbin/parstatus	%d%/parstatus.txt	○	○	○	○
5		ハードウェアパーティションの 構成	○		/usr/sbin/parstatus -w	%d%/parstatus_w.txt	○	○	○	○
6		システム診断メッセージ	○		/usr/sbin/dmesg	%d%/dmesg.txt	○	○	-	○

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
7		ハードログ(最新 diaglog)	○		/usr/bin/cp -pf /var/stm/logs/os/log*.raw.cur 保存先デ ィレクトリ名	%d%/var/stm/logs/os/log*.raw.cur ※1 %d%/var/stm/logs/os/cp_var_stm_log s_os_log_raw_cur.stdout.txt ※2	○	○	-	○
8		ハードログ(最新 SFM ログ)	○		/opt/sfm/bin/evweb eventviewer -L -x -f -o 0 -c 20 ※3, ※4	%d%/evweb_eventviewer_L_x_f_o_0_c_ 20.txt	○	○	-	○
9		ハードログ(diaglogの採取状況)	○		/usr/bin/ls -l /var/stm/logs/os/*	%d%/ls_l_var_stm_logs_os.txt	○	○	-	○
10		ハードログ(onlinediag)		○	/var/opt/resmon/log/event.log ※5	%d%/var/opt/resmon/log/event.log	○	○	-	○
11		ハードログ(プロセッサ)		○	/var/tombstones/*	%d%/var/tombstones	○	○	-	○
12	デバイス ドライバ 情報	接続デバイス情報	○		/usr/sbin/ioscan -fnk	%d%/ioscan_fnk.txt	○	○	○	○
13		接続デバイス情報 (v3)	○		/usr/sbin/ioscan -fnkN ※6	%d%/ioscan_fnkN.txt	○	○	○	○
14		LUN ハードウェアパスと lunpath ハードウェアパスの対応 (v3)	○		/usr/sbin/ioscan -m lun ※6	%d%/ioscan_m_lun.txt	○	○	○	○
15		失われたデバイススペシャルフ ァイル情報 (v3)	○		/usr/sbin/lssf -s ※6	%d%/lssf_s.txt	○	○	○	○
16		SAS ディスク構成情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_sas_lun_locate_legacy.txt	○	○	○	○
17		SAS ディスク構成情報 (v3)	○		IT Report Utility 付属のコマンド ※7	%d%/os_sas_lun_locate_ persistent.txt	○	○	○	○
18		各 N_port に関する統計情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_fcmsutil.txt	○	○	-	○
19		NIC 構成情報	○		/usr/sbin/lanscan	%d%/lanscan.txt	○	○	○	○
20		NIC 構成情報	○		/usr/sbin/lanscan -v	%d%/lanscan_v.txt	○	○	○	○
21	デバイスドライバー一覧	○		/usr/sbin/lsdev	%d%/lsdev.txt	○	○	○	○	
22	デバイススペシャルファイルの 対応情報 (v3)	○		/usr/sbin/ioscan -m dsf ※6	%d%/ioscan_m_dsf.txt	○	○	○	○	
23	デバイススペシャルファイル一 覧	○		/usr/bin/ls -lRa /dev	%d%/ls_lRa_dev.txt	○	○	○	○	
24	割り込み構成情報	○		/usr/contrib/bin/intctl -p	%d%/intctl_p.txt	○	○	○	○	
25	システムの I/O 構成情報	○		/usr/bin/ls -l /etc/ioconfig /stand/ioconfig /etc/ext_ioconfig /stand/ext_ioconfig ※9	%d%/ls_ioconfig.txt	-	○	○	○	

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
26	ダンプ 関連情報	ダンプの採取状況	○		/usr/bin/ls -lRa /var/adm/crash	%d%/ls_var_adm_crash.txt	—	○	—	○
27		ダンプ情報(ダンプ本体除く)		○	/var/adm/crash/crash.*/INDEX	%d%/crash_INDEX.tar %d%/crash_INDEX.tar.stdout.txt	○	○	—	○
28		ダンプ採取設定情報	○		/sbin/crashconf -v	%d%/crashconf_v.txt	○	○	○	○
29	ソフト ウェア 情報	ホスト名	○		/usr/bin/hostname	%d%/hostname.txt	○	○	○	○
30		OS バージョン, ノード名	○		/usr/bin/uname -a	%d%/uname_a.txt	○	○	○	○
31		HP 社製ミドルウェア一覧情報	○		/usr/sbin/swlist	%d%/swlist.txt	○	○	○	○
32		HP 社製ミドルウェア一覧情報	○		/usr/sbin/swlist -l bundle -l product	%d%/swlist_l_bundle_l_product.txt	○	○	○	○
33		HP 社製ミドルウェア一覧情報	○		/usr/sbin/swlist -l product	%d%/swlist_l_product.txt	○	○	○	○
34		パッチ適用状況	○		/usr/sbin/swlist -l fileset -a install_date -a state -a patch_state	%d%/swlist_a_state.txt	○	○	○	○
35		カーネルのパッチ適用状況	○		/usr/bin/what /stand/vmunix	%d%/what_stand_vmunix.txt	○	○	○	○
36		ブートデバイス設定テーブル情報		○	/stand/bootconf	%d%/stand/bootconf	○	○	○	○
37		コア・ファイルの名称および出力場所の設定情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド ※7	%d%/coreadm.txt	○	○	○	○
38		SD-UX agent ログ	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/adm/sw/swagent.log	%d%/swagent.log.txt	○	○	—	○
39	SD-UX デーモンログ	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/adm/sw/swagentd.log	%d%/swagentd.log.txt	○	○	—	○	
40	swinstall 実行ログ	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/adm/sw/swinstall.log	%d%/swinstall.log.txt	○	○	—	○	
41	OS アップデートログ	○		/usr/bin/tail -n 1000 /var/adm/sw/update-ux.log ※10	%d%/update-ux.log.txt	○	○	—	○	
42	カーネル 情報	カーネルパラメータ	○		/usr/sbin/kctune -v	%d%/kctune_v.txt	○	○	○	○
43		リソース使用量	○		/usr/sbin/kcusage -y	%d%/kcusage_y.txt	○	○	○	○
44		カーネルコンフィグ情報		○	/stand/system	%d%/stand/system	○	○	○	○
45		カーネル構築情報	○		/usr/sbin/kconfig -v	%d%/kconfig_v.txt	○	○	○	○
46		カーネルモジュール情報	○		/usr/sbin/kcmodule -av	%d%/kcmodule_av.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
47	セキュリティ情報	ライブラリのアクセス権	○		/usr/bin/find /usr/lib -type f -name "lib*.*" ! -name "lib*.cat" ! -name "lib*.a" -follow ! -perm 555   /usr/bin/xargs /usr/bin/ls -l	%d%/ls_l_usr_lib.txt	○	○	○	○
48		セキュリティ設定情報		○	/etc/default/security	%d%/etc/default/security	○	○	○	○
49		高信頼性モード設定情報	○		/usr/sbin/authck -p	%d%/authck_p.txt	○	○	-	○
50	OS 起動時情報	init プロセス用スクリプト		○	/etc/inittab	%d%/etc/inittab	○	○	○	○
51		rc スクリプト一覧	○		/usr/bin/ls -l /sbin/rc*	%d%/ls_l_sbin_rc.txt	○	○	○	○
52		rc スクリプト内容一覧		○	/etc/rc.config.d/*	%d%/etc/rc.config.d/*	○	○	○	○
53		OS 起動ログ		○	/etc/rc.log	%d%/etc/rc.log	○	○	○	○
54		OS 起動ログ(old ログ)		○	/etc/rc.log.old	%d%/etc/rc.log.old	○	○	○	○
55	LVM 情報	物理ボリューム, ボリュームグループ一覧	○		/usr/bin/strings /etc/lvmtab	%d%/strings_etc_lvmtab.txt	○	○	○	○
56		物理ボリューム, ボリュームグループ一覧 (v3)	○		/usr/sbin/lvmadm -lF ※11	%d%/lvmadm_lF.txt	○	○	○	○
57		ボリュームグループと マイナー番号の対応	○		/usr/bin/ls -l /dev/*/group	%d%/ls_l_dev_group.txt	○	○	○	○
58		物理ボリュームグループ		○	/etc/lvmpvg	%d%/etc/lvmpvg	○	○	○	○
59		ボリュームグループ情報	○		/usr/sbin/vgdisplay -v	%d%/vgdisplay_v.txt	○	○	○	○
60		論理ボリューム情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_lvdisplay.txt	○	○	○	○
61		物理ボリューム情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_pvdisplay.txt	○	○	○	○
62		ブート・ルート・スワップ・ダ ンプディスク (LVM)	○		/usr/sbin/lvlnboot -v	%d%/lvlnboot_v.txt	○	○	○	-
63		起動スクリプトファイル		○	/etc/lvmrc	%d%/etc/lvmrc	○	○	○	○
64		ブートストリング	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/EFI_AUTO	○	○	○	-
65	VxVM 情報	構成情報(冗長出力)	○		/usr/sbin/vxprint -th	%d%/vxprint_th.txt	○	○	○	○
66		ディスクグループ一覧	○		/usr/sbin/vxdg list	%d%/vxdg_list.txt	○	○	○	○
67		ディスク一覧	○		/usr/sbin/vxdisk list	%d%/vxdisk_list.txt	○	○	○	○
68		サポートされているディスクア レイの一覧	○		/usr/sbin/vxddladm listsupport	%d%/vxddladm_listsupport.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
69		接続されているディスクコントローラの一覧	○		/usr/sbin/vxdmpadm listctlr all	%d%/vxdmpadm_listctlr_all.txt	○	○	○	○
70		VxFS/VxVM ライセンス情報 (VxFS/VxVM 3.5以降)	○		/usr/sbin/vxlicrep	%d%/vxlicrep.txt	○	○	○	○
71		VxFS ファイル・システムの統計情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_vxfsstat.txt	○	○	-	○
72	ファイルシステム情報	起動時に自動マウントされるファイルシステム一覧		○	/etc/fstab	%d%/etc/fstab	○	○	○	○
73		マウントされているファイルシステム	○		/usr/sbin/mount	%d%/mount.txt	○	○	○	○
74		マウントされているファイルシステム	○		/usr/sbin/mount -p	%d%/mount_p.txt	○	○	○	○
75		ファイルシステムの使用量	○		/usr/bin/bdf -ils	%d%/bdf_ils.txt	○	○	○	○
76	NFS 情報	NFS 設定ファイル (v2)		○	/etc/exports	%d%/etc/exports	○	○	○	○
77		NFS 設定ファイル (v3)		○	/etc/dfs/dfstab	%d%/etc/dfs/dfstab	○	○	○	○
78		NFS のバージョン情報 (v3)		○	/etc/default/nfs	%d%/etc/default/nfs	○	○	○	○
79		AUTOFS の定義情報		○	/etc/auto_master	%d%/etc/auto_master	○	○	○	○
80		AUTOFS の設定情報 (v3)		○	/etc/default/autofs	%d%/etc/default/autofs	○	○	○	○
81		NFS, AUTOFS 関連の設定値 (v3)	○		/usr/sbin/setoncnv -lv	%d%/setoncnv_lv.txt	○	○	○	○
82		リモートマウントの状況	○		/usr/sbin/showmount -a	%d%/showmount_a.txt	○	○	○	○
83		エクスポートの状況	○		/usr/sbin/showmount -e	%d%/showmount_e.txt	○	○	○	○
84		NFS 統計情報	○		/usr/bin/nfsstat	%d%/nfsstat.txt	○	○	-	○
85		NFS 統計情報 (mount 状態のもの)	○		/usr/bin/nfsstat -m	%d%/nfsstat_m.txt	○	○	-	○
86	rpc.mountd のログファイル (v3)	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/nfs/mountd.log ※9	%d%/mountd.log.txt	○	○	-	○	
87	rpc.statd のログファイル (v3)	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/nfs/rpc.statd.log ※9	%d%/rpc.statd.log.txt	○	○	-	○	
88	ネットワーク情報	ネットワークパラメータ (実体)	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_ifconfig.txt	○	○	○	○
89		ネットワークカードの速度	○		IT Report Utility 付属のコマンド ※12	%d%/os_spd_mtu_cko.txt	○	○	○	○
90		ネットワークパラメータ	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_ndd_get.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
91		経路情報	○		/usr/bin/netstat -rnv	%d%/netstat_rnv.txt	○	○	○	○
92		ネットワーク統計情報	○		/usr/bin/netstat -in	%d%/netstat_in.txt	○	○	-	○
93		ネットワークカード統計情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_lanadmin_g.txt	○	○	-	○
94		ネットワーク統計情報 (プロトコル単位)	○		/usr/bin/netstat -s	%d%/netstat_s.txt	○	○	-	○
95		ネットワークカード状態情報	○		/usr/bin/netstat -an	%d%/netstat_an.txt	○	○	○	○
96		マルチキャスト情報	○		/usr/bin/netstat -ign	%d%/netstat_ign.txt	○	○	○	○
97		ネットワークカード情報	○		/usr/sbin/netfmt -N -n -l -t 20 -f /var/adm/nettl.LOG000	%d%/netfmt_N_n_l_t20.txt	○	○	-	○
98		ネットワーク名		○	/etc/networks	%d%/etc/networks	○	○	○	○
99		プロトコル名		○	/etc/protocols	%d%/etc/protocols	○	○	○	○
100		サービス名		○	/etc/services	%d%/etc/services	○	○	○	○
101		ホストファイル		○	/etc/hosts	%d%/etc/hosts	○	○	○	○
102		名前解決設定情報		○	/etc/nsswitch.conf	%d%/etc/nsswitch.conf	○	○	○	○
103		問い合わせサーバ情報		○	/etc/resolv.conf	%d%/etc/resolv.conf	○	○	○	○
104		named 構成定義		○	/etc/named.conf	%d%/etc/named.conf	○	○	○	○
105		NIS ドメイン名	○		/usr/bin/domainname	%d%/domainname.txt	○	○	○	○
106		NIS サーバ情報	○		/usr/bin/ypwhich	%d%/ypwhich.txt	○	○	○	○
107		使用可能なマッピング	○		/usr/bin/ypwhich -m	%d%/ypwhich_m.txt	○	○	○	○
108		NIS 管理下のホストファイル情報	○		/usr/bin/ypcat hosts	%d%/ypcat_hosts.txt	○	○	○	○
109		起動サービス設定		○	/etc/inetd.conf	%d%/etc/inetd.conf	○	○	○	○
110		inetd のアクセス制御情報		○	/var/adm/inetd.sec	%d%/var/adm/inetd.sec	○	○	○	○
111		ポートマップ情報一覧	○		/usr/bin/rpcinfo -p	%d%/rpcinfo_p.txt	○	○	○	○
112		ftpd のアクセス許可設定 ファイルの権限	○		/usr/bin/ls -l /etc/ftpd/ftpusers /etc/ftpd/ftpgroups /etc/ftpd/ftpaccess	%d%/ls_ftp_security.txt	-	○	○	○
113		リモートアクセス許可設定		○	/.rhosts	%d%/rhosts	○	○	○	○
114		リモートのアクセス許可設定 ファイルの権限	○		/usr/bin/ls -l /.rhosts	%d%/ls_l_.rhosts.txt	○	○	○	○
115		経路定義情報		○	/etc/gated.conf	%d%/etc/gated.conf	○	○	○	○
116		IP パケットフィルタ定義情報	○		/sbin/ipf -V	%d%/ipf_V.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
117		フィルタ設定 (IPv4)		○	/etc/opt/ipf/ipf.conf	%d%/etc/opt/ipf/ipf.conf	○	○	○	○
118		フィルタ設定 (IPv6) (v3)		○	/etc/opt/ipf/ipf6.conf	%d%/etc/opt/ipf/ipf6.conf	○	○	○	○
119		フィルタ設定 (NAT)		○	/etc/opt/ipf/ipnat.conf	%d%/etc/opt/ipf/ipnat.conf	○	○	○	○
120		IP パケットフィルタの バッファサイズ設定 (v2)	○		/usr/bin/ndd -get /dev/pfil ipl_buffer_sz ※13	%d%/ndd_ipl_buffer_sz.txt	○	○	○	○
121		パケット入出力情報	○		/sbin/ipfstat -io	%d%/ipfstat_io.txt	○	○	○	○
122		IP パケットフィルタの グループ設定情報	○		/sbin/ipfstat -g	%d%/ipfstat_g.txt	○	○	○	○
123		DCA モード設定	○		/sbin/ipf -m q	%d%/ipf_m_q.txt	○	○	○	○
124		DCA モードの状態	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_ipf_Q.txt	○	○	○	○
125		snmpd 設定情報		○	/etc/SnmpAgent.d/snmpd.conf	%d%/etc/SnmpAgent.d/snmpd.conf	○	○	○	○
126		SNMP バージョン情報	○		/usr/bin/what /usr/sbin/snmpdm	%d%/what_usr_sbin_snmpdm.txt	○	○	○	○
127		NTP 設定情報		○	/etc/ntp.conf	%d%/etc/ntp.conf	○	○	○	○
128		時刻同期情報	○		/usr/sbin/ntpq -pn	%d%/ntpq_pn.txt	○	○	○	○
129	cron 情報	cron 情報		○	/var/spool/cron/crontabs/*	%d%/var/spool/cron/crontabs	○	○	○	○
130		cron 動作ログ	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/adm/cron/log	%d%/cron_log.txt	○	○	-	○
131	OS ログ	システムログ	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_syslog.txt	○	○	-	○
132	情報	過去のシステムログ	○		/usr/bin/tail -n 1000 /var/adm/syslog/OLDSyslog.log	%d%/OLDSyslog.log.txt	○	○	-	○
133		システム停止ログ		○	/etc/shutdownlog	%d%/etc/shutdownlog	○	○	-	○
134		単調増加ログファイルのサイズ 情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_list_logfiles.txt	○	○	-	○
135	稼働情報	プロセス情報	○		/usr/bin/ps -efl	%d%/ps_efl.txt	○	○	○	○
136		システム・ログイン中ユーザ稼 働時間	○		/usr/bin/uptime -wl	%d%/uptime_wl.txt	○	○	-	○
137		システム稼働状況(瞬間情報)	○		/usr/sbin/sar -AM 1	%d%/sar_AM_1.txt	○	○	-	○
138		メッセージキュー, 共有メモリ, セマフォ	○		/usr/bin/ipcs -a	%d%/ipcs_a.txt	○	○	○	○
139		プロセスごとの CPU 使用率	○		/usr/bin/top -s1 -d1 -n 99999	%d%/top_s1_d1_n99999.txt %d%/top_s1_d1_n99999.stdout.txt	○	○	-	○



項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
140		システムメモリの統計情報(瞬間状況)	○		/usr/bin/vmstat -S	%d%/vmstat_S.txt	○	○	-	○
141		スワップ一覧	○		/usr/sbin/swapinfo -ta	%d%/swapinfo_ta.txt	○	○	○	○
142		pset 構成情報	○		/usr/sbin/psrset -i	%d%/psrset_i.txt	○	○	○	○
143	APA 情報	APA 定義ファイル		○	/etc/lanmon/lanconfig.ascii	%d%/etc/lanmon/lanconfig.ascii	○	○	○	○
144		APA 定義情報	○		/usr/sbin/lanscan -q	%d%/lanscan_q.txt	○	○	○	○
145		APA 詳細情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_lanadmin_xv_apa.txt	○	○	○	○
146		APA ポート情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_lanadmin_xq_apa.txt	○	○	○	○
147		APA ポート統計情報	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_lanadmin_g_apa.txt	○	○	-	○
148	Data	DP 関連プロセスの状態	○		/opt/omni/sbin/omnisv.sh -status ※14	%d%/omnisv.sh_status.txt	-	○	○	○
149	Protector	メディア・プールの情報	○		/opt/omni/bin/omnimm -list_pool -detail ※14	%d%/omnimm_listpool_detail.txt	-	○	○	○
150		DP 関連パッチの適用状況	○		/opt/omni/bin/omnicheck -patches ※14	%d%/omnicheck_patches.txt	-	○	○	○
151	EMS・HA	EMS 管理リソース、報告先設定	○		IT Report Utility 付属のコマンド ※15	%d%/os_monconfig_status.txt	○	○	○	○
152	Monitors 情報	EMS・HA モニタ監視リソース	○		/opt/resmon/bin/set_fixed -l ※16	%d%/set_fixed_l.txt	○	○	○	○
153		EMS・HA モニタ監視リソース	○		/opt/resmon/bin/emscli -l all	%d%/emscli_l_all.txt	○	○	○	○
154	Ignite-UX	リストア/ネットワークインストール後のログ情報		○	/var/opt/ignite/local/install.log	%d%/var/opt/ignite/local/install.log	-	○	-	○
155	PRM 情報	PRM 構成情報		○	/etc/prmconf	%d%/etc/prmconf	○	○	○	○
156		PRM 構成情報	○		/usr/bin/prmconfig	%d%/prmconfig.txt	○	○	○	○
157		PRM 構成情報	○		/usr/bin/prmlist	%d%/prmlist.txt	○	○	○	○
158		PRM リソース割当量	○		/usr/bin/prmmonitor	%d%/prmmonitor.txt	○	○	-	○
159	Serviceguard 情報	クラスタパッケージ構成情報	○		/usr/sbin/cmviewconf	%d%/cmviewconf.txt	○	○	○	○
160		クラスタ構成情報	○		/usr/sbin/cmquerycl -v	%d%/cmquerycl_v.txt	○	○	○	○
161		パッケージ構成ファイルなどの一覧情報	○		/usr/bin/ls -lRa /etc/cmcluster	%d%/ls_etc_cmcluster.txt	○	○	○	○
162		クラスタ構成情報	○		/usr/sbin/cmgetconf	%d%/cmgetconf.txt	○	○	○	○
163		パッケージ構成ファイルなどの一覧	○		IT Report Utility 付属のコマンド	%d%/os_cmgetconf_p.txt	○	○	○	○
164		パッケージ状態	○		/usr/sbin/cmviewcl -v	%d%/cmviewcl_v.txt	○	○	○	○

項番	分類	資料名	採取方法		採取ツール、コマンド名 または ファイル、ディレクトリ名	出力ファイル、ディレクトリ名	systoru コマンドの 条件オプション			
			採取ツール/コマンド	ファイル/ディレクトリ			-g		-t	
							common	os	config	failure
165		core ファイル情報	○		/usr/bin/file /var/adm/cmcluster/core	%d%/file_var_adm_cmcluster_core.txt	○	○	-	○
166		core, フライトレコーダ生成時刻情報	○		/usr/bin/ls -l /var/adm/cmcluster	%d%/ls_var_adm_cmcluster.txt	○	○	-	○
167		クォーラムサーバ設定		○	/etc/cmcluster/qs_authfile	%d%/etc/cmcluster/qs_authfile	-	○	○	○
168		クォーラムサーバ稼働ログ	○		/usr/bin/tail -n 500 /var/adm/qs/qs.log	%d%/qs.log.txt	-	○	○	○
169	vPars 情報	vPars 構成情報	○		/usr/sbin/vparstatus ※17	%d%/vparstatus.txt	○	○	○	○
170		vPars 構成情報(冗長出力)	○		/usr/sbin/vparstatus -v ※17	%d%/vparstatus_v.txt	○	○	○	○
171		vPars リソース情報	○		/usr/sbin/vparstatus -A ※17	%d%/vparstatus_A.txt	○	○	○	○
172		vpmon 構成情報	○		/usr/sbin/vparstatus -m ※17, ※18	%d%/vparstatus_m.txt	○	○	○	○
173		vPars パーティション名	○		/usr/sbin/vparstatus -w ※17	%d%/vparstatus_w.txt	○	○	○	○
174		vpmon ログ情報	○		/usr/sbin/vparextract -l ※18	%d%/vparextract_l.txt	○	○	-	○
175	日立ミドル 情報	日立 PP 一覧		○	/etc/.hitachi/pplistd/pplistd	%d%/etc/.hitachi/pplistd/pplistd	○	○	○	○
176		日立 PP 一覧	○		/etc/.hitachi/bin/SHOWPP	%d%/SHOWPP.txt	○	○	○	○

注※1 HA8500 E6 モデル以降ではファイルが存在しないため、採取されません。

注※2 HA8500 E6 モデル以降では、引数に指定したファイルが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。

注※3 SFM がインストールされていない環境では、コマンドが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。

注※4 SFM B.04.00.06 または SFM C.02.00.04 より前のバージョンがインストールされている場合、オプションが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。

注※5 HA8500 E6 モデル以降ではファイルが存在しないため、採取されません。

注※6 HP-UX 11i v2 の環境では、オプションが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。

注※7 HP-UX 11i v2 の環境では、OS では処理を行わないことを示す KAIQ133-E が出力ファイルに記録されます。

注※8 vPars & Integrity VM 6.1/6.1.5 の VSP (vPar または VM のホスト OS に該当する、仮想化環境管理用のプラットフォーム) の環境では、AVIO NPIV HBA を割り当てた仮想サーバ (vPar または VM) が動作している場合、一部の FC HBA の属性情報を採取できないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。

- 注※9 HP-UX 11i v2 の環境では、リストするファイルが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※10 OS のアップデートをしていない場合は、リストするファイルが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※11 HP-UX 11i v3(2008 年 3 月版)以前の環境では採取されません。
- 注※12 HP-UX 11i v2(2004 年 9 月版)の環境では、オプションが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※13 HP-UX 11i v3 の環境では、引数に指定したファイルが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。  
HP-UX 11i v3 の環境では、出力ファイル%d%/kctune\_v.txt 内の ipl\_buffer\_sz パラメータを確認ください。
- 注※14 Data Protector がインストールされていない環境では、コマンドが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※15 HA8500 E6 モデル以降で実行した場合、このコマンドはサポートされていないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※16 HA8500 E6 モデル以降で実行した場合、Down 状態のリソースを列挙できないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※17 vPars & Integrity VM 6.1/6.1.5 の VSP(vPar または VM のホスト OS に該当する、仮想化環境管理用のプラットフォーム)の環境では、コマンドが存在しないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。
- 注※18 HA8500/SD E6 モデル以降では、サポートされていないことを示すメッセージが出力ファイルに記録されます。

## 付録B. メッセージ一覧

IT Report Utility から出力されるメッセージを次の表に示します。

表 B-1 systoru コマンドが出力するメッセージ一覧

メッセージID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS101-E	The specified option(%1) is invalid. %1:オプションに指定した引数		○	○	systoru コマンドに不正なオプションが指定されています。	コマンドラインを見直して再実行してください。
KAIS102-E	The specified option(%1) requires an argument. %1:引数が指定されなかったオプション		○	○	systoru コマンドのオプションに引数が指定されていません。	コマンドラインを見直して再実行してください。
KAIS104-E	The specified directory(%1) does not exist. %1:データディレクトリ名		○	○	指定されたデータディレクトリが存在しません。	存在するデータディレクトリを指定して再実行してください。
KAIS105-E	You do not have write permissions for the specified directory(%1). %1:データディレクトリ名		○	○	指定されたデータディレクトリに書き込み権限がありません。	書き込み権限があるディレクトリを指定して再実行してください。
KAIS106-E	The specified configuration file(%1) does not exist. %1:ファイル名		○	○	指定された構成定義ファイルが存在しません。	存在する構成定義ファイルを指定して再実行してください。
KAIS107-W	The specified option(%1) cannot be specified twice or more. %1:指定されたオプション		○	○	複数指定できないオプションが複数回指定されています。	なし(最後に指定されたオプションが有効になります)。
KAIS108-E	The specified argument of the option(%1) is too long. %1:オプションに指定した引数		○	○	オプションの引数が指定できる文字列長を超えて指定されています。	オプションに指定する引数を見直して再実行してください。
KAIS109-E	The specified file(%1) already exists. %1: ファイル名		○	○	存在するファイル名が指定されています。	存在しないファイル名を指定して再実行してください。
KAIS112-E	You do not have access permissions for the specified file(%1). %1:ファイル名		○	○	指定されたファイルにアクセスできませんでした。	ファイルのアクセス権を変更するか,別のファイルを指定して再実行してください。

メッセージID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS113-E	An error occurred during the following system call. system call name = %1, error code = %2, msg = %3. %1:システムコール名 %2:エラー番号 (10進形式) %3:メッセージ		○	○	システムコールエラーが発生しました。	「6.3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIS114-E	source = %1, line no = %2. %1:ソースファイル名 %2:行番号 (10進形式)			○	メッセージ ID KAIS113-E に関する内部情報です。	—
KAIS115-E	A required option is not specified.		○	○	-t または -g オプションが一つも指定されませんでした。	-t オプションまたは -g オプションを指定して再実行してください。
KAIS116-E	Another systoru is already running. Please try later.		○	○	別の systoru コマンドが実行中です。	実行中の systoru コマンドの終了を待って再実行してください。
KAIS117-E	This cannot be executed because the user is not a super user.		○		root ユーザ以外で実行しました。	root ユーザで再実行してください。
KAIS118-E	A configuration file(%1) does not exist. %1:ファイル名		○	○	構成定義ファイルが存在しません。	構成定義ファイルの存在を確認して再実行してください。
KAIS119-E	A syntax error occurred.		○	○	構成定義ファイルに構文エラーがあります。	KAIS120-E が示す箇所を見直して再実行してください。
KAIS120-E	filename = %1, line no = %2. %1:ファイル名 %2:行番号 (10進形式)		○	○	構文エラーがある構成定義ファイル名と行番号です	該当する構成定義ファイルの行番号を見直して再実行してください。
KAIS121-E	There is not system information to be collected under the specified options.		○	○	採取する資料が一つもありません。	引数が以下のいずれかであることを確認して再実行してください。 -g : common または os -t : config または failure
KAIS122-E	Memory is insufficient.		○	○	メモリ不足が発生しました。	メモリが空くのを待って再実行してください。

メッセージ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS125-W	An information collecting tool(%1) that collects system information does not exist. %1:採取ツール名			○	採取ツールが存在しません。	表示された採取ツールの存在を確認してください。
KAIS126-W	A timeout occurred while information collecting tool(%1) was being executed. %1:採取ツール名			○	実行中の採取ツールでタイムアウトが発生しました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①採取ツールが OS コマンドの場合、単独で実行して問題を切り分けます。 ②採取ツールがこのツールが提供するツールの場合、サポートに問い合わせます。
KAIS129-W	A system information(%1) is not found. %1:ファイル名またはディレクトリ名			○	採取する資料が存在しません。	表示されたファイルまたはディレクトリがシステム上に存在するか確認してください。
KAIS130-W	An attempt to collect the system information has failed.			○	採取資料の収集に失敗しました。	ディスクに空きがあり、書き込み権限があるかどうかを確認してください。
KAIS131-W	The size of the output data exceeded a limit size.		○		資料採取の処理で生成される中間ファイルの合計サイズが SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の設定値の 50% を超えました。	次のどれかの対処を実行してください。 ①採取できた資料を取得する ②ディスクの空き容量を確認（または確保）して再実行する ② SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の値を見直して再実行する
KAIS132-W	An error occurred while an archiver was being executed.		○	○	アーカイブ処理でエラーが発生しました。	アーカイブ前の出力ファイル（採取資料）を取得してください。

メッセージ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS133-W	An attempt to copy the logfile (%1) has failed. %1:ファイル名		○	○	実行ログファイルのコピーに失敗しました。	出力ファイル（採取資料）とは別に実行ログファイルを個別に採取してください。
KAIS135-W	An error occurred while a compression was being executed.		○	○	圧縮処理でエラーが発生しました。	アーカイブファイルを採取資料として取得してください。
KAIS136-E	systoru was interrupted. signal no = %1. %1:受信したシグナル番号（10進形式）		○	○	systoru コマンドが中断されました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①SYSTORU_CLEANUP=OFFで、かつ、それまで採取した資料を必要とする場合は、データディレクトリ下に出力されているアーカイブ前のファイルを取得してください。不要な場合は手動で削除してください。 ②改めて資料を採取する場合は systoru コマンドを再実行してください。
KAIS137-W	Internal error occurred.			○	採取パターン定義ファイルが不正です。	「6.3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIS138-W	filename = %1, line no = %2. %1:ファイル名 %2:行番号（10進形式）			○	メッセージ ID KAIS137-W の付加情報です。	
KAIS139-W	Invalid format number (%1). %1:ファイル名			○	採取パターン定義ファイルのフォーマットバージョンが不正です。	「6.3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。

メッセージID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS140-W	An error occurred during the following system call. system call name = %1, error code = %2, msg = %3. %1:システムコール名 %2:エラー番号 (10進形式) %3:メッセージ		○	○	採取パターン定義ファイル読み込みでエラーが発生しました。	「6.3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIS141-W	source = %1, line no = %2. %1:ソースファイル名 %2:行番号 (10進形式)			○	メッセージ ID KAIS140-E に関する内部情報です。	—
KAIS142-W	An attempt to copy the logfile (%1) has failed. %1:ファイル名			○	実行履歴ログファイルのコピーに失敗しました。	次のどちらかの対処を実行してください。 ①ログファイルを格納するディレクトリに書き込み権限があるかどうかを確認します。 ②実行履歴ログファイルを手動で削除します。
KAIS143-W	Memory is insufficient.		○	○	メモリ不足が発生しました。	メモリが空くのを待つて再実行してください。
KAIS144-E	The specified output file(%1) must be absolute path name. %1:ファイル名		○	○	指定された出力ファイル名が絶対パス形式ではありません。	-o オプションで指定する出力ファイル名を絶対パス形式にして再実行してください。
KAIS145-W	There is not system information because an error occurred during reading of all collection pattern definition files.		○	○	すべての採取パターン定義ファイルで読み込み中にエラーが発生したため、採取する資料がありません。	採取パターン定義ファイルが読み取り可能かどうかを確認してください。



メッセージ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS146-W	An attempt to delete a %1 has failed. %1:ファイル名		○	○	圧縮処理後にアーカイブファイルが削除できませんでした。	アーカイブファイルが使用中でないか確認して削除してください。アーカイブファイルが使用中の場合は使用しているプロセスを停止してから削除してください。
KAIS151-E	Additional information, path = %1. %1:ファイル名		○		メッセージ ID KAIS113-E に関する付加情報（エラーの対象となったファイル名）です。	—
KAIS152-W	Additional information, path = %1. %1:ファイル名		○	○	メッセージ ID KAIS140-W に関する付加情報（エラーの対象となったファイル名）です。	—
KAIS153-W	The size of the output data exceeded a limit size. filename = %1. size = %2 bytes. %1:収集するファイル名。 %2:収集するファイルのサイズ。(10進形式)			○	資料の収集中に、それまで収集した資料の合計サイズが SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の設定値の 50% を超えました。	次のどれかの対処を行ってください。 ①採取できた資料を取得します。 ②ディスクの空き容量を確認（または確保）して再実行します。 ② SYSTORU_MAX_OUTPUT_DATA_SIZE の値を見直して再実行します。
KAIS159-W	systoru command is older than the collection pattern file. skip the file %1. %1:ファイル名		○	○	このツールが未対応の採取パターン定義ファイルを読み込んだため、スキップしました。	最新のツールを入手し、更新インストールしてください。
KAIS211-I	Archive file = %1. size = %2 bytes. %1:アーカイブファイル名 %2:ファイルサイズ	○		○	(圧縮前の) アーカイブファイルを採取資料として出力しました。	アーカイブファイルを採取資料として取得してください。

メッセージ ID	メッセージ	出力先			意味	対処方法
		標	エ	ロ		
KAIS214-I	Output file = %1. size = %2 bytes. %1:圧縮ファイル名 %2:ファイルサイズ	○		○	圧縮ファイルを採取資料として出力しました。	圧縮ファイルを採取資料として取得してください。
KAIS215-I	Output = %1. %1:ディレクトリ名	○		○	(アーカイブ前の) ディレクトリ以下に採取資料を出力しました。	ディレクトリ以下のファイルを採取資料として取得してください。
KAIS306-I	The archive file has not been compressed. Use a following file as is.		○	○	アーカイブファイルが圧縮されませんでした。	アーカイブファイルを採取資料として取得してください。

(凡例)

標：標準出力に出力されます。

エ：標準エラーログに出力されます。

ロ：実行ログファイルまたは実行履歴ログファイルに出力されます。

表 B-2 その他のコマンドが出力するメッセージ一覧

メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ003-E	usage: os_cmgetconf_p directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ004-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ005-E	%1[%2]: /usr/sbin/cmgetconf not found. %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		コマンドが存在しません。	—
KAIQ006-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ014-E	usage: os_fcmsutil directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ015-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ016-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ023-E	usage: os_ifconfig directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。

メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ024-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1: コマンド名 %2: 行番号 %3: ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ025-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ033-E	usage: os_ipf_Q directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ034-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1: コマンド名 %2: 行番号 %3: ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ035-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ043-E	usage: os_lanadmin_g directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ044-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1: コマンド名 %2: 行番号 %3: ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ045-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。

メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ054-E	usage: os_lanadmin_g_apa directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ055-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ056-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ064-E	usage: os_lanadmin_xq_apa directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ065-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ066-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ073-E	usage: os_lanadmin_xv_apa directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ074-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。

メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ075-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ083-E	usage: os_lvdisplay directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ084-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ085-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ092-E	usage: os_lvmbotstr directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ093-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ094-W	%1[%2]: efi_cp error occurred. EXITCODE: %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : 終了コード	○		内部で実行したコマンドがエラー終了しました。	—
KAIQ103-E	usage: os_pvdisplay directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。

メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ104-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ105-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ115-E	usage: os_spd_mtu_cko directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ116-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ117-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ131-E	usage: os_vercheck condition command [arg...] condition: '< < = > = > != version-string'	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ132-E	%1[%2]: not specified by the full-path. %1 : コマンド名 %2 : 行番号	○		コマンドの使用方法が不正です。指定したコマンドが絶対パスではありません。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ133-E	%1[%2]: no support OS version. %1 : コマンド名 %2 : 行番号	○		実行環境のOSが条件をみていません。	—

メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ134-E	%1[%2]: cannot execute command. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : 内部で実行するコマンド名	○		内部で実行しようとしたコマンドが見つかりません。	—
KAIQ135-E	%1[%2]: exec error. -- errno=%3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : 内部で実行したコマンドの終了コード	○		内部で実行しようとしたコマンドが実行できませんでした。	—
KAIQ143-E	usage: os_sas_hba_fw_ver directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ144-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ145-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。
KAIQ153-E	usage: os_sas_lun_locate_legacy directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ154-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ155-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。



メッセージID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ163-E	os_sas_lun_locate_persistent directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ164-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ165-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策する
KAIQ173-E	usage: os_vxfsstat directory	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ174-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。
KAIQ175-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策する
KAIQ183-E	usage: os_scsmngr directory command	○		コマンドの使用方法が不正です。	「6. 3 トラブルシューティングに必要な資料」に示す資料を手動で採取し、サポートに問い合わせてください。
KAIQ184-E	%1[%2]: no such directory. -- %3 %1 : コマンド名 %2 : 行番号 %3 : ディレクトリ名	○		ファイルを作成するディレクトリが存在しません。	資料の出力先に書き込みができることを確認し再実行してください。

メッセージ ID	メッセージ	出力先		意味	対処方法
		資	ロ		
KAIQ185-I	A message was outputted to stderr. Please confirm the following message.	○		内部で実行したコマンドが標準エラー出力にメッセージを出力しました。	このメッセージに続くメッセージの内容を確認し、必要に応じて対策してください。

(凡例)

資：採取資料に出力されます。

ロ：実行ログファイルまたは実行履歴ログファイルに出力されます。

## 付録C. 実行時間とファイルサイズの目安

IT Report Utility で資料を採取した場合の実行時間および出力ファイル（採取資料）のサイズの目安を、次に示すモデルケースを例に説明します。なお、表 C-1 の数値はシステム構成、設定、インストールされているソフトウェアやシステムの稼働時間などによって異なります。IT Report Utility を適用するシステムで事前に検証してください。

### C.1 システム構成（モデルケース）

#### （1）サーバスペック

モデル：日立アドバンストサーバ HA8500/310（D4R モデル）

CPU：インテル® Itanium® プロセッサ(1.4GHz)×2

メモリ：16361 MB

HDD：72GB HDD×1

#### （2）インストールソフトウェア

HP-UX 11i v3 Virtual Server OE

### C.2 実行時間と出力ファイルのサイズ

表 C-1 systoru コマンドの実行時間と採取資料（出力ファイル）のサイズ

		実行時間	出力ファイル (圧縮ファイル)	展開後のファイル (ファイル群)
-t オプション	config	約 23 秒	約 0.4MB	約 2.7MB
	failure	約 43 秒	約 0.5MB	約 3.8MB

## 付録D. ファイル一覧

### D.1 インストールファイル一覧

IT Report Utilityでインストールされるファイルの一覧を、次の表に示します。

表 D-1 インストールファイル一覧

#	ディレクトリ/ファイル名	容量
1	/etc/opt/hitachi/systoru/	—
2	/etc/opt/hitachi/systoru/config/	—
3	/etc/opt/hitachi/systoru/config/systoru_conf	1KB未満
4	/etc/opt/hitachi/systoru/pattern/	—
5	/etc/opt/hitachi/systoru/pattern/!100_os_common	50KB
6	/etc/opt/hitachi/systoru/pattern/!200_os_etc	3KB
7	/etc/opt/hitachi/systoru/pattern/0280_os_health	18KB
8	/opt/hitachi/systoru/	—
9	/opt/hitachi/systoru/bin/	—
10	/opt/hitachi/systoru/bin/systoru	680KB
11	/opt/hitachi/systoru/template/	—
12	/opt/hitachi/systoru/template/systoru_conf	1KB未満
13	/opt/hitachi/systoru/tool/	—
14	/opt/hitachi/systoru/tool/os_cmgetconf_p	2KB
15	/opt/hitachi/systoru/tool/os_fcmsutil	2KB
16	/opt/hitachi/systoru/tool/os_ifconfig	1KB未満
17	/opt/hitachi/systoru/tool/os_ipf_Q	1KB未満
18	/opt/hitachi/systoru/tool/os_lanadmin_g	1KB未満
19	/opt/hitachi/systoru/tool/os_lanadmin_g_apa	2KB
20	/opt/hitachi/systoru/tool/os_lanadmin_xq_apa	2KB
21	/opt/hitachi/systoru/tool/os_lanadmin_xv_apa	1KB未満
22	/opt/hitachi/systoru/tool/os_list_logfiles	1KB未満
23	/opt/hitachi/systoru/tool/os_lvdisplay	1KB未満
24	/opt/hitachi/systoru/tool/os_lvmbotstr	2KB
25	/opt/hitachi/systoru/tool/os_monconfig_status	1KB未満
26	/opt/hitachi/systoru/tool/os_ndd_get	1KB未満
27	/opt/hitachi/systoru/tool/os_pvdisplay	2KB
28	/opt/hitachi/systoru/tool/os_sas_hba_fw_ver	2KB
29	/opt/hitachi/systoru/tool/os_sas_lun_locate_legacy	2KB
30	/opt/hitachi/systoru/tool/os_sas_lun_locate_persistent	2KB
31	/opt/hitachi/systoru/tool/os_scsimgr	2KB
32	/opt/hitachi/systoru/tool/os_spd_mtu_eko	2KB
33	/opt/hitachi/systoru/tool/os_syslog	1KB未満
34	/opt/hitachi/systoru/tool/os_vercheck	2KB

#	ディレクトリ/ファイル名	容量
35	/opt/hitachi/systoru/tool/os_vxfsstat	2KB
36	/var/opt/hitachi/systoru/	—
37	/var/opt/hitachi/systoru/data/	—
38	/var/opt/hitachi/systoru/log/	—

(凡例)

— : ディレクトリです。

## D.2 systoruコマンド実行時に作成されるファイル

systoruコマンド実行時に作成されるファイルの一覧を、次の表に示します。

表 D-2 systoru コマンド実行時に作成されるファイル一覧

#	ファイル名	容量	備考
1	/opt/hitachi/systoru/bin/.systoru.lck	0KB	
2	/opt/hitachi/systoru/bin/.systoru_hist.lck	0KB	
3	/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名>_YYMMDDhhmmss	可変※	アーカイブ前の採取資料が格納されるディレクトリです（デフォルト）。アーカイブ完了後に削除します。
4	/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名>_YYMMDDhhmmss.tar	可変※	圧縮前の採取資料のアーカイブファイルです（デフォルト）。圧縮完了後に削除します。
5	/var/opt/hitachi/systoru/data/<ホスト名>_YYMMDDhhmmss.tar.Z	可変※	systoruコマンドが出力する採取資料です（デフォルト）。
6	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru.log	約100KB ～500KB	systoruコマンドの実行時トレース情報（1回分）です。ファイルのサイズは採取資料の数やエラーの発生状況により異なります。
7	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_old.log	約100KB ～500KB	#6の1世代前のファイルです。
8	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_hist.log	最大10KB	systoruコマンドの簡易ログを累積して記録します。
9	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_hist_old.log	最大10KB	#8の1世代前のファイルです。#8が10KBを超えたタイミングで切り替わります。
10	/var/opt/hitachi/systoru/log/systoru_stderr.log	約10KB	採取ツールのエラーメッセージを一時的に保存します。ファイルのサイズはエラーの発生状況により異なります。systoruコマンド終了時には0バイトになります。

## 注※

該当する資料の容量は、systoru コマンド実行時の環境により変化します。ただし、構成定義ファイルの設定値 SYSTORU\_MAX\_OUTPUT\_DATA\_SIZE を超えてディスクを使用することはありません。

## 付録E. 01-10から02-00の間で追加／変更になった資料

IT Report Utility のバージョン 01-10 からバージョン 02-00 の間で追加／変更になった採取資料を次の表に示します。なお、表の項番は表 A-1 の項番と一致します。

表 E-1 01-10 から 02-00 の間で追加／変更になった採取資料

項番	分類	資料名	採取情報 (変更後)	変更種別	採取情報 (変更前)
7	ハードウェア情報	ハードログ(最新 diaglog)	/usr/bin/cp -pf /var/stm/logs/os/log*.raw.cur 保存先ディレクトリ名	変更	/var/stm/logs/os/log*.raw.cur
8		ハードログ(最新 SFM ログ)	/opt/sfm/bin/evweb eventviewer -L -x -f -o 0 -c 20	変更	/opt/sfm/bin/evweb eventviewer -L -x -f
※1	デバイスドライバ情報	SCSI デバイス情報 (v3)	IT Report Utility 付属のコマンド	変更	/usr/sbin/scsimgr -v get_attr all_lun
※1		SCSI デバイス情報 (v3)	IT Report Utility 付属のコマンド	変更	/usr/sbin/scsimgr -v get_stat all_lun
※1		SCSI デバイス情報 (v3)	IT Report Utility 付属のコマンド	変更	/usr/sbin/scsimgr -v get_info all_lun
16		SAS ディスク構成情報	IT Report Utility 付属のコマンド	変更	/opt/sas/bin/sasmgr -v get_info -D /dev/sasd0 -q lun=all -q lun_locate
17		SAS ディスク構成情報 (v3)	IT Report Utility 付属のコマンド ※2	変更	IT Report Utility 付属のコマンド
37	ソフトウェア情報	コア・ファイルの名称および出力場所の設定情報	IT Report Utility 付属のコマンド	追加	—
70	VxVM 情報	VxFS/VxVM ライセンス情報 (VxFS/VxVM 3.5 以降)	/usr/sbin/vxlicrep	追加	—
71		VxFS ファイル・システムの統計情報	IT Report Utility 付属のコマンド	追加	—
75	ファイルシステム情報	ファイルシステムの使用量	/usr/bin/bdf -ils	変更	/usr/bin/bdf -il
148	Data Protector	DP 関連プロセスの状態	/opt/omni/sbin/omnisv.sh -status	追加	—
149		メディア・プールの情報	/opt/omni/bin/omnimm -list_pool -detail	追加	—
150		DP 関連パッチの適用状況	/opt/omni/bin/omnicheck -patches	追加	—
154	Ignite-UX	リストア/ネットワークインストール後のログ情報	/var/opt/ignite/local/install.log	追加	—

注※1 IT Report Utility 02-00-/A で採取しなくなった情報であるため、項番は記載していません。

※2 SAS コントローラのデバイススペシャルファイル名が変更された環境に対応しました。

## 付録F. 02-00から02-00-/Aの間で追加／変更になった資料

IT Report Utility のバージョン 02-00 からバージョン 02-00-/A の間で追加／変更になった採取資料を次の表に示します。

表 F-1 02-00 から 02-00-/A の間で追加／変更になった採取資料

項番	分類	資料名	採取情報 (変更後)	変更種別	採取情報 (変更前)
1	デバイス ドライバ 情報	SCSI デバイス 情報 (v3)	- ※1	削除	IT Report Utility 付属のコマンド
2		SCSI デバイス 情報 (v3)	- ※1	削除	IT Report Utility 付属のコマンド
3		SCSI デバイス 情報 (v3)	- ※1	削除	IT Report Utility 付属のコマンド
4		SCSI デバイス 情報 (v3)	- ※1	削除	/usr/sbin/scsimgr -v get_attr all_ctlr
5		SCSI デバイス 情報 (v3)	- ※1	削除	/usr/sbin/scsimgr -v get_stat all_ctlr
6		SCSI デバイス 情報 (v3)	- ※1	削除	/usr/sbin/scsimgr -v get_info all_ctlr

※1: scsimgr (1M) コマンド実行時に、テープデバイスに対して不正に rewind 命令が発行される問題があり、scsimgr (1M) コマンドを使用した情報を採取しないようにしました。